

# 2003年 環境報告書

伊藤ハムの環境管理活動の報告



地球環境にやさしい会社を目指します



|                     |   |
|---------------------|---|
| 会社概要・2003年環境報告書について | 2 |
| ごあいさつ               | 3 |



## 基本方針

|                  |   |
|------------------|---|
| 経営姿勢・企業倫理規範      | 4 |
| 環境基本方針：基本理念・行動指針 | 5 |



|                |   |
|----------------|---|
| 2002年度の活動ハイライト | 6 |
|----------------|---|



|              |   |
|--------------|---|
| 事業活動と環境負荷の概況 | 7 |
| 関係法規及び法の遵守   | 7 |



## 環境マネジメント

|               |    |        |    |
|---------------|----|--------|----|
| 環境マネジメントの推進組織 | 9  | グリーン購入 | 10 |
| 環境監査の実施       | 9  | 中期環境目標 | 11 |
| ISO14001認証取得  | 10 | 環境会計   | 12 |



## 環境負荷低減の取り組み

|                  |    |              |    |
|------------------|----|--------------|----|
| 省エネルギーの取り組み      | 13 | その他の環境負荷低減活動 | 17 |
| 温室効果ガスと化学物質の排出抑制 | 15 |              |    |
| 廃棄物の削減と有効利用      | 16 |              |    |



## 環境コミュニケーション

|         |    |            |    |
|---------|----|------------|----|
| 情報開示    | 19 | ボランティア支援制度 | 20 |
| 従業員教育   | 20 | 環境社会活動     | 21 |
| 社外からの評価 | 20 | 社会とのかかわり   | 22 |



## 環境パフォーマンス

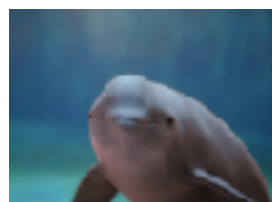
|             |    |
|-------------|----|
| 伊藤ハムの取り組み実績 | 23 |
| 関連会社の取り組み実績 | 25 |

|           |    |
|-----------|----|
| 環境保全活動の沿革 | 26 |
|-----------|----|

＊環境に関するQ&Aを、ご質問と関係のあるページに記載しています。

### 〈表紙のことば〉

スナメリは体長が160～170cm、体重が50～60kgの最も小さいクジラ・イルカ類の一種です。かつて瀬戸内海や伊勢湾で、そのかわいい姿がたくさん見られましたが、海洋汚染等の影響を受けて減少し続け、水産庁版レッドデータの希少種に指定されています。食物連鎖の頂点にあり、汚染物質を体内に溜めやすく、環境のシンボルの存在といわれています。

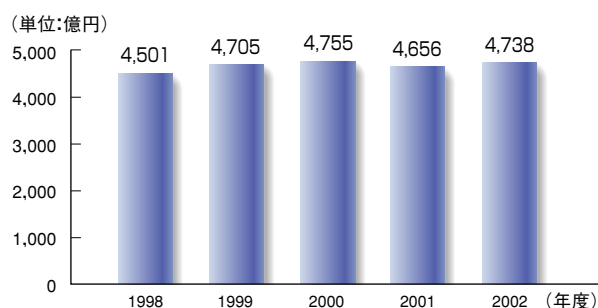


写真提供 宮島町立宮島水族館

## 会社概要（2003年3月現在）

|           |                   |         |                        |
|-----------|-------------------|---------|------------------------|
| 会 社 名     | 伊藤ハム株式会社          | 従 業 員 数 | 2,435人（連結：6,242人）      |
| 設 立       | 1948年（昭和23年）      | 主 な 事 業 | ● 食肉加工品の製造及び販売         |
| 創 業       | 1928年（昭和3年）       |         | ● 食肉の加工及び販売            |
| 本 社 事 務 所 | 兵庫県西宮市高畑町4番27号    |         | ● 調理加工食品、惣菜類の製造及び販売 など |
| 代 表 者     | 代表取締役社長 伊藤 正視     |         |                        |
| 資 本 金     | 224億 1,500万円      |         |                        |
| 売 上 高     | 4,738億9,100万円（連結） |         |                        |

### 売上高の推移（連結）



連結対象会社 連 結 子 会 社 / 47社  
持分法適用関連会社 / 10社



## 2003年環境報告書について

### 編集方針

2003年環境報告書は伊藤ハムグループの環境マネジメントの考え方や、取り組み内容及びその結果の環境パフォーマンスなどを、幅広い方々にお読みいただくことを念頭に、次のとおり編集を行いました。

- \* 2003年環境報告書は、
  1. 基本方針、
  2. 2002年度の活動ハイライト、
  3. 事業活動と環境負荷の概況、関係法規及び法の遵守
  4. 環境マネジメント、
  5. 環境負荷低減の取り組み、
  6. 環境コミュニケーション、
  7. 環境パフォーマンスとして掲載しています。
- \* 環境省の「環境報告書ガイドライン」に準拠して構成しました。
- \* 環境報告書を幅広くお届けするために、当社ホームページ上でも情報を公開しています。

### 対象範囲

〔組織〕 伊 藤 ハ ム 株 式 会 社：九州工場、六甲工場、西宮工場、豊橋工場、東京工場、船橋工場、北神工場  
伊藤ハムデイリー株式会社：東北工場、小樽工場  
伊藤ハム食品株式会社：小矢部工場

〔期間〕 2002年4月1日～2003年3月31日

- ※集計方法の見直しなどにより、「2002年環境報告書」に記載したデータを一部修正・変更して掲載した箇所があります。
- ※掲載されている数値データは四捨五入しているため、合計及び増減のパーセントが合わない場合があります。
- ※環境パフォーマンス（関連会社の取り組み実績）にサンキョーミート株式会社の環境データを掲載しています。
- ※一部に2003年4月1日以降の活動内容が含まれています。

### 第三者認証について

①第三者認証に関するガイドラインが制定されていないこと、②認証機関の資格要件が不明確であることから、本報告書では第三者認証を取得していません。しかし、本報告書の対象範囲の主体である当社の生産部門についてはISO14001の環境マネジメントシステムを構築し、外部審査機関の監査を受けています。また、掲載データについては、本社の所轄部門および環境担当部門が内容確認・精査しています。

なお、客観性を保証するための手段については、第三者認証の取得なども含めて検討しています。

### 次回発行予定

2004年6月を予定しています。

## はじめに

地球温暖化をはじめとする地球規模の環境問題は、さまざまな努力にもかかわらず、ますます深刻化しています。目まぐるしい技術革新と旺盛な消費需要に支えられ、大量生産、大量消費、大量廃棄型から転換を図り、「持続可能な社会の構築」に向け、環境に配慮した経営が強く求められております。

当社は1999年に制定した環境基本方針で、「環境基本理念」と「環境行動指針」及び「中期環境目標」を掲げました。そして従業員一人ひとりが環境意識を高め、さらに目標に向け、事業経営を通じて環境活動に取り組んでおります。

また2001年4月に3カ年の「伊藤ハムグループ中期経営計画」を策定しました。この計画はグループの経営理念として、企業の使命、経営の姿勢、経営者・従業員の倫理規範をうたい、高いコンプライアンス意識のもとに、よき企業市民として社会に貢献できる企業活動を目指した、新たな企業像を策定したものです。(4ページ)

## 2002年度の取り組みと実績

環境マネジメントのベースとなる国際規格ISO 14001については、新たに北神工場と船橋工場が取得し、伊藤ハムのハム・ソーセージ及び調理加工食品の生産工場はすべて認証を取得しました。(注:船橋工場は2003年5月取得)

生産活動にともなう環境負荷やエネルギー使用量を減らすコージェネシステムを、2001年の西宮工場に続き、九州工場、豊橋工場及びグループ会社の伊藤ハムデイリー東北工場と、サンキョーミート有明ミート工場に新たに導入しました。その結果、グループにおける電力・燃料などの総エネルギーの使用量は、2003年度を目標年とした中期目標を予定より1年早く達成しました。

物流部門においては、クリーンエネルギー車である天然ガス車を増車し、現在27台が都市部を中心に走行しております。さらにグループ全体で継続的にアイドリングストップ運動を実施し、大気の汚染防止に努めております。

10月には、ハム・ソーセージ業界で、環境経営に努力していることが評価され、日本食糧新聞社より「平成14年度 環境資源協力賞(後援:農林水産省・環境省)」を受賞しました。これからもさらに環境に配慮した経営に努めてまいります。

この環境報告書は、2000年に発行して以来、当社グループの環境保全活動の結果をご報告し、皆様との積極的なコミュニケーションを図り、環境対策のレベルアップにつなげることを目的にしております。

2003年の発刊にあたり、心新たに環境基本理念の「地球環境の保全と社会との共生」を図る努力をこれからも持続してまいります。

皆様からのご意見・ご感想をいただければ幸甚に存じます。

2003年6月

代表取締役社長

伊藤 正親





伊藤ハムグループは、長期的な企業価値の向上を目指すことを経営の基本方針とし、創業以来の社は「事業を通じて社会に奉仕する」のもとに、「真心を込めたサービスと高品質で、お客様の健康と豊かな食文化の創造に貢献する」ことを基本理念に掲げ、それを実現するために次の5項目を経営の基本姿勢としました。

また社は及び経営理念に基づき、正しい行動がとれる体制づくりの一環としてコンプライアンス意識を高める「企業倫理規範」を策定しました。役員や従業員全員が倫理規範と行動指針を遵守し、高い倫理意識のもと、企業価値の向上を目指しています。

### 経 営 姿 勢

1. 長期的な企業価値の向上を目指し、透明な経営情報を開示します。
2. お客様が求める「安全・安心」と「品質・鮮度」の高い商品をお届けします。
3. お客様に対する提案力の向上とスピーディーな対応を実践します。
4. 環境に配慮し、その保全と社会との共生を図る努力を持続的に実践します。
5. 一人ひとりが企業活動を通じ社会への貢献を認識し、自己実現できる活力ある職場を創造します。

### 企 業 倫 理 規 範

#### 1. 公正な行動

- 伊藤ハムグループは、会社が社会の公器であるとの自覚と責任のもと、常に社会的良識に沿って公正に行動します。

#### 2. 倫理観と遵法の精神

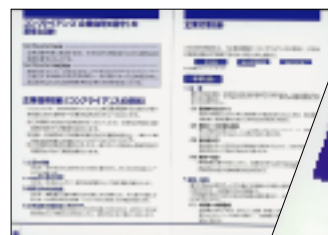
- 常に遵法に心がけ、確固たる倫理観をもって誠実に事業活動を行います。

#### 3. 関係法令の社内徹底

- 事業活動に必要な関係法令の収集とその理解に努め、その遵守を確実にするため、社内規定の制定と教育・アナウンスなどを通じて社内徹底を図ります。

#### 4. 法令違反の早期是正と厳正対処

- 業務遂行活動が関係法令や社会的良識に反する場合は、速やかにその違反状態を是正し、再発防止に努めるとともに、違反行為に対して厳正に対処します。



コンプライアンス・ハンドブック



# 環境基本方針

伊藤ハムグループは、「事業を通じて社会に奉仕する」との社是のもと、食文化と社会の発展に寄与してまいりました。また経営姿勢として地球環境の保全を最重要課題の一つと認識し、「地球環境の保全と自然との調和・共生に配慮した事業活動を展開する」ことを宣言し、環境基本方針の中で、基本理念と行動指針を掲げ、グループ全従業員が一丸となった環境活動を継続的に実践しています。

## 基本理念

私たちは地球規模の環境保全が、人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、事業活動を通じて環境に配慮し、その保全と社会との共生を図る努力を持続的に実践してまいります。

## 行動指針

1. 開発から使用・廃棄に至るすべての過程で環境影響に十分配慮した商品、及びサービスの開発推進を行います。
2. 環境に及ぼす影響を考慮し、環境目的・目標を定め、定期見直しにより環境保全の継続的改善を図ります。
3. 環境関連法・規制・条例・協定を遵守し、自主管理基準を定め環境保全活動に努めます。
4. 省エネルギー、省資源、及び廃棄物・温暖化物質・オゾン層破壊物質の排出削減を図るとともに、廃棄物の資源リサイクルを推進し、循環型社会形成の対応と地球環境負荷低減に努めます。
5. 外部・内部監査を定期に実施し、自主管理の徹底を図ります。
6. 社内外の環境教育及び社内広報活動を通じて、従業員に環境基本方針の理解と環境保全意識の向上を図ります。
7. 海外事業活動において、当事国における環境保全に十分配慮します。
8. 環境基本方針及び環境保全と活動結果について、環境報告書により情報開示します。

## 2 2002年度の活動ハイライト

2002年度は、前年度の西宮工場に続いて3工場がコージェネシステムを導入し、ハム・ソーセージ・調理加工食品を生産するためのエネルギー削減に取り組みました。

環境監査、廃棄物の削減と有効利用、ISO14001認証取得、社会活動についても継続して取り組んでいます。

### コージェネシステム導入の推進

2001年7月の西宮工場での稼働に続き、2002年度は九州工場、豊橋工場、伊藤ハムデイリー東北工場でコージェネシステムが稼働しました。エネルギーの有効利用による省エネルギーの推進を主目的に導入しました。(詳細は14ページ)



コージェネシステム(豊橋工場)

### 環境監査の実施

2002年度はグループ8工場の環境監査を実施しました。各工場とも問題となる指摘事項はありませんでした。(詳細は9ページ)



環境監査(東京工場)

### 高効率型蒸気ボイラーの導入

2002年度は六甲工場、豊橋工場、東京工場で蒸気ボイラーを高効率型に交換し、ボイラーの運転に必要な都市ガスや重油燃料を削減しました。(詳細は13ページ)



高効率型蒸気ボイラー(六甲工場)

### 廃棄物の削減と有効利用の推進

廃棄物を削減し、分別の徹底と有効利用を進めるために、各工場ではエコステーション(廃棄物集積場)の整備と廃棄物計量システムの導入を進めています。(詳細は16ページ)



エコステーション(船橋工場)



廃棄物計量システム

### 伊藤ハムすべての生産工場でISO14001認証取得

2002年度は調理加工食品を生産する北神工場がISO14001を認証取得しました。2001年度にハム・ソーセージ生産工場は認証取得を完了しており、2003年5月、船橋工場の認証取得で伊藤ハムの生産工場は、すべて認証取得を完了しました。(詳細は10ページ)



北神工場の登録証

### 国際ビーチクリーンアップに参加

2002年4月14と9月22日、環境ボランティアの「ビーチクリーンアップin須磨」に本社、西宮工場、六甲工場、北神工場など関西地区在住の従業員と家族が参加しました。(詳細は21ページ)

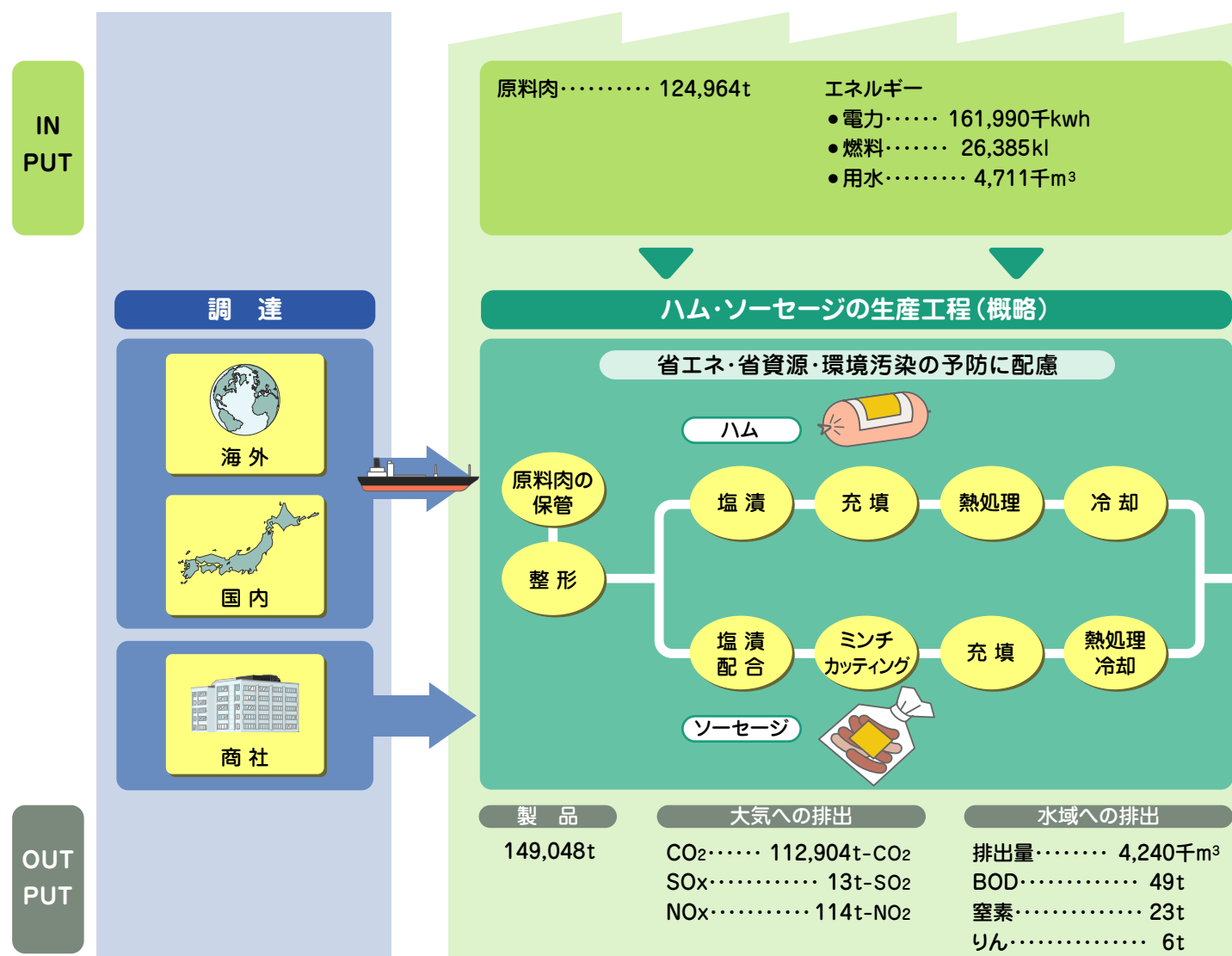


ビーチクリーンアップ(神戸・須磨海岸)



# 3 事業活動と環境負荷の概況

ハム・ソーセージ・調理加工食品の生産工程において、環境に与える負荷の発生状況は次のとおりです。生産工程で使用する原材料及び電力・燃料・用水などの投入量（INPUT）と、廃棄物や二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）など環境への排出量（OUTPUT）の概況を示しています。伊藤ハムグループでは、事業活動にともなって発生する環境負荷を低減させるために、さまざまな活動に取り組んでいます。



## 関係法規及び法の遵守

事業活動にともなって発生する環境負荷を低減し、環境汚染を未然に防止するため、環境に関する法律はもちろん、地域の環境保全協定や自主基準値を遵守し、伊藤ハムグループの環境基本方針に沿った活動に取り組んでいます。伊藤ハムグループの生産工場に適用される主な環境関連法には次のようなものがあります。

- 大気汚染防止法
- 水質汚濁防止法
- 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）
- 食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律（食品リサイクル法）
- 資源の有効な利用の促進に関する法律（リサイクル法）
- 容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）
- フロン回収破壊法
- 特定の化学物質の環境への排出量等の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）
- エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネルギー法）
- 労働安全衛生法
- 自治体との環境保全協定 など

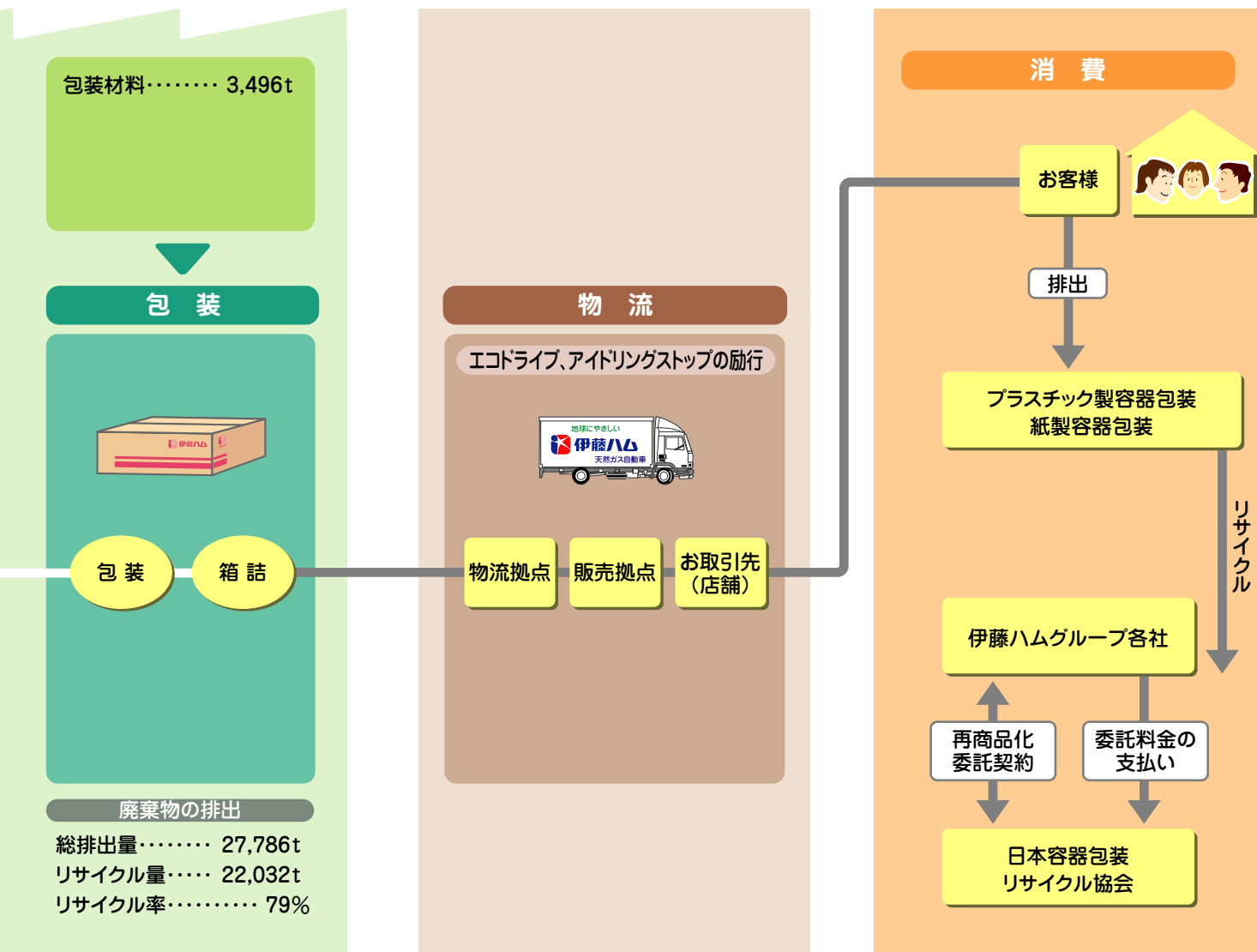


## ■ 環境に関する苦情・法違反

2002年度に生産工場の環境問題  
に関する苦情は2件発生し、それぞれ  
設備・作業方法の改善策を講じました。

大気汚染、水質汚濁、振動などその他の環境  
問題に関する苦情はありませんでした。

| 区 分 | 件 数 | ご 指 摘 の 内 容                           | 対 応 策                                                                    |
|-----|-----|---------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 騒 音 | 1件  | 深夜に排気ファンの機械音が気になる。                    | 排気ファン周辺を防音シートで覆い騒音を防止しま<br>した。                                           |
| 悪 臭 | 1件  | 日によって、また風向きによって生産物<br>排気臭が住居周辺に漂ってくる。 | 調査の結果、排水の脱水機室の臭気と判明。脱水装<br>置にのれんカバーを取り付け、臭気を脱臭装置へ回<br>収するようにして臭気を防止しました。 |
| 法違反 | なし  | 今後も継続して法規制遵守に努めます。                    |                                                                          |



## 環境負荷の概況 事業活動にともなって発生する主な環境負荷（OUTPUT）は次のとおりです。

**二酸化炭素**… 工場などで石油、石炭などの化石燃料を燃焼することによって発生する気体。  
（CO<sub>2</sub>） 気体自体は有害ではありませんが、地上から放出される熱を吸収する温室  
効果があり、その濃度が高まると地球温暖化を招きます。二酸化炭素の排  
出抑制は地球規模の課題です。

**硫黄酸化物**… 硫黄の酸化物の総称で、SO<sub>x</sub>と略称されます。工場や火力発電所で石炭、  
（SO<sub>x</sub>） 重油を燃焼する際、その燃料中に存在する硫黄分が硫黄酸化物となり、排  
出ガス中に含まれ大気汚染の原因となります。

**窒素酸化物**… 窒素の酸化物の総称で、NO<sub>x</sub>と略称されます。発電所や工場のボイラー、自  
（NO<sub>x</sub>） 動車エンジンなど高温燃焼の際に一酸化窒素（NO）が発生し、大気中に排  
出されます。窒素酸化物による大気汚染を防止するため、大気汚染防止法  
等により対策が進められています。

**BOD**…………… 生物化学的酸素要求量。水中の有機物が微生物の働きによって分解され  
るときに消費される酸素の量で、河川の有機汚濁を測る代表的な指標です。  
排水処理の性能を評価したり、河川の水質を評価する時に使用されます。  
数値が多いほど有機物が多い、つまり水質汚濁が進んでいることを示します。

**窒素**…………… 窒素はりんとともに水中の栄養塩類として富栄養化の原因になります。水域の  
栄養塩類は、家庭排水、工場排水などにより供給され、赤潮やアオコ現象を引き  
起こします。

**りん**…………… 閉鎖性水域における富栄養化の原因物質の一つ。富栄養化とは、湖沼などの閉  
鎖性水域が栄養塩類の負荷の増加にともない、高い生物生産力を持つようにな  
る現象で、赤潮やアオコ、底層の貧酸素化が原因となる青潮が発生の原因とな  
るもので、漁業障害や利水障害が問題となっています。富栄養化原因物質であ  
る栄養塩類のうちの主なものがりん及び窒素です。りんは窒素と同様、合成洗剤  
などを含む生活排水、工場排水などにより供給されます。

**廃棄物**… 廃棄物処理法では、廃棄物を一般廃棄物と産業廃棄物の二つに分類しています。  
工場から出る廃棄物は、産業廃棄物と事業系の一般廃棄物に分かれます。産業  
廃棄物は、事業活動にともなって工場などから排出される汚泥、廃プラスチックな  
ど20種類の廃棄物であり、排出した者が責任をもって処理しなければならず、種  
類ごとに処分のための基準が定められています。廃棄物排出総量から産業廃棄  
物を除いたものが事業系一般廃棄物にあたります。

# 4 環境マネジメント

伊藤ハムグループでは、環境保全活動をより効果的に行い、持続可能な社会の構築に貢献していくために環境マネジメントシステムを構築し、運用しています。

## 環境マネジメントの推進組織

環境マネジメントを推進するため、統括組織として役員、本部長、部長などで構成する環境委員会を設置し、環境基本方針や環境保全対策などの審議・承認と中期の課題について検討しています。環境委員会での決定事項については、会社組織や各部会などを通じて全事業所に周知徹底しています。



## 環境監査の実施

環境汚染や環境事故を未然に防止するために、環境マネジメントシステムに規定された事業所内で実施する内部監査のほかに、本社環境安全推進室と工場環境管理責任者などで構成する監査チームが、年度の環境監査計画に沿って主要事業所の監査を行っています。

### 2002年度に監査した事業所

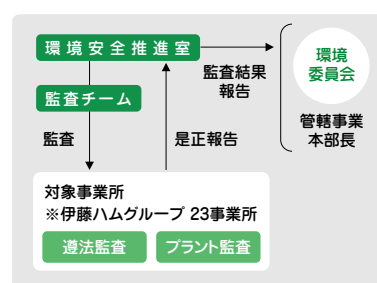
伊藤ハム：九州工場、六甲工場、西宮工場、豊橋工場、東京工場  
サンキョーミート：有明ミート工場、霧島ミート工場、  
藤栄ファーム事業部

### 監査項目

環境関連法遵守状況、公害防止管理、廃棄物管理、化学物質管理、環境パフォーマンス管理 など

### 監査結果

2002年度の監査の結果、遵法状況と環境関連施設などの管理状況に、問題はありませんでした。



監査体制図

## ISO14001認証取得

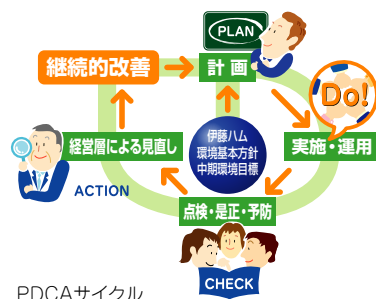
環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001については、2003年3月、調理加工食品生産工場では初めて、北神工場が認証取得しました。

ハム・ソーセージ生産工場はすべて2001年度に認証取得を完了しており、2003年5月に船橋工場が認証取得したことにより、伊藤ハムの生産工場はすべて認証取得を完了しました。

伊藤ハムグループのISO14001認証取得状況は次のとおりです。

### ■ 伊藤ハムグループのISO14001認証取得事業所

| サイト名                                     | 認証機関                                             | 登録年月     |
|------------------------------------------|--------------------------------------------------|----------|
| 伊藤ハム 西宮工場                                | 日本環境認証機構 (JACO)                                  | 2000年 2月 |
| 東京工場                                     | 日本環境認証機構 (JACO)                                  | 2000年 9月 |
| 豊橋工場                                     | 日本環境認証機構 (JACO)                                  | 2000年11月 |
| 六甲工場                                     | 日本環境認証機構 (JACO)                                  | 2001年10月 |
| 九州工場                                     | 日本環境認証機構 (JACO)                                  | 2002年 2月 |
| 北神工場                                     | 日本海事検定キューエイ (NKKKQA)                             | 2003年 3月 |
| 船橋工場                                     | 日本環境認証機構 (JACO)                                  | 2003年 5月 |
| サンキョーミート 有明ミート工場<br>藤栄ファーム事業部<br>霧島ミート工場 | 日本海事検定キューエイ (NKKKQA)                             | 2002年 3月 |
| ロックデールビーフ社 (オーストラリア)                     | NCS International Pty Ltd                        | 2000年 3月 |
| ファイブスタービーフ社 (ニュージーランド)                   | SGS International Certification Services Pty Ltd | 2001年 1月 |



PDCAサイクル

### 緊急時の対応策

各事業所では、事故等の緊急事態を想定し、影響の拡散を防ぎ、汚染を最小限に抑えけるとともに、早期に修復するために、環境マネジメントシステムの緊急時の処置手順に沿って定期的に訓練を実施しています。

万一事故が発生したときには、社内間での連絡と地域住民、行政機関への連絡を円滑に行うため、「環境関連の緊急時連絡システム」を運用しています。

2002年度は緊急事態の発生はありませんでした。

### 想定される緊急事態

1. 汚水、汚泥のオーバーフロー
2. 廃油の漏洩、廃水処理薬品の漏洩
3. 代替フロン (HCFC-22) の漏洩など



汚水流出を防ぐシャッター遮断訓練  
(豊橋工場)

## グリーン購入

循環型社会を構築していくため、グリーン購入基本方針とガイドラインを制定し、省エネ・省資源など、環境に配慮した製品の優先的な購入に取り組んでいます。

| 対象品目    |                      | グリーン購入の割合 (%) |        |       |
|---------|----------------------|---------------|--------|-------|
|         |                      | 2001年度        | 2002年度 | 増減    |
| 文具類     | 筆記具、ファイル等            | 52.7          | 65.7   | 13.0P |
| 紙類      | コピー用紙、コンピューター用紙、包装紙等 | 86.7          | 82.7   | ▲4.0P |
| OA機器類   | パソコン、コピー機、ファクシミリ等    | 90.4          | 95.2   | 4.8P  |
| 照明器具類   | ランプ、蛍光灯器具等           | 50.9          | 50.7   | ▲0.2P |
| オフィス家具類 | 事務用机、椅子、OAテーブル等      | 65.2          | 97.8   | 32.6P |
| 制服類     | 作業着等                 | —             | 4.0    | —     |

### グリーン購入基本方針

持続可能な社会の実現に向け、環境に与える負荷ができるだけ小さい製品の優先的購入を進める必要があります。そこで、当社は資源採取から廃棄までの製品のライフサイクルを考慮して、「環境汚染物質の削減」、「省エネルギー・省資源」、「持続可能な資源の利用」、「長期使用可能」、「再生素材等の利用」、「処理・処分容易性」などの観点から製品、資材等の購入を行い、「廃棄物の減量化」と「環境負荷の低減」を目指します。



伊藤ハム株式会社は、グリーン購入ネットワークの会員です。



## 中期環境目標

1999年の「伊藤ハムグループ環境基本方針」及び「環境行動指針」の策定にともない、「中期環境目標」を設定しました。また、2001年度に策定した「伊藤ハムグループ中期経営計画」の中で、一層の環境配慮の経営姿勢が示され、一部目標の見直しを行いました。中期目標は、1999年度を基準年とし、2003年度を目標年度としています。

いま全従業員が一丸となって中期環境目標の達成に向けて積極的に取り組んでいます。

### ■ 中期目標値

|                    | 2003年度の目標値                                                                                     | 2002年度の実績                                                                                             |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1) 省エネルギー、省資源の推進   | <ul style="list-style-type: none"> <li>総エネルギーを5%削減</li> <li>用水使用量を10%削減</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>総エネルギーを11.2%削減しました。</li> <li>用水使用量を10.2%削減しました。</li> </ul>     |
| 2) 廃棄物の削減とリサイクルの推進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物排出量を10%削減</li> <li>リサイクル率100%</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物排出量は2.2%増加しました。</li> <li>リサイクル率は79.0%となりました。</li> </ul>     |
| 3) 温室効果ガスの排出削減     | <ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>の排出量を8%削減</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>の排出量を3.1%削減しました。</li> </ul>                      |
| 4) 環境管理体制の充実       | <ul style="list-style-type: none"> <li>グループの生産10工場でISO14001を認証取得</li> <li>環境監査の継続実施</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>伊藤ハムの生産7工場は認証取得しました。</li> <li>対象事業所8工場の環境監査を実施しました。</li> </ul> |

\* 1)～3)は生産原単位 総エネルギー：原油換算（購入電力＋燃料＋購入蒸気）

### ● 2002年度の実績（主たる項目）

#### 1) 省エネルギー、省資源の推進

\*2002年度は、冷凍機やボイラーなどの機械設備の更新時に高効率型を積極的に採用、また、コージェネシステムを前年の西宮工場に続き、九州工場、豊橋工場とグループ会社の東北工場で新たに導入した結果、総エネルギーの生産原単位が大幅に向上し、中期の目標を1年早く達成しました。

\*用水については、レトルト設備の2次冷却水や、他の設備の冷却水などの使用水を再利用し、また、各職場に用水メーターを取り付け、水量管理を強化しました。その結果、基準年より10.2%削減し1年早く目標を達成しました。

#### 2) 廃棄物の削減とリサイクルの推進

\*廃棄物については、前年より削減しましたが、生産量の増加や生産品目の変更などで結果的に基準年より2.2%増加となりました。

\*リサイクル率については、工場間によってバラツキがありますが、トータルでは10ポイントUPし79%となりました。

#### 3) 温室効果ガスの排出削減

\*新たに導入したコージェネシステムは重油燃料を使用したため、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の排出は基準年の3.1%の削減にとどまりました。

#### 4) 環境管理体制の充実

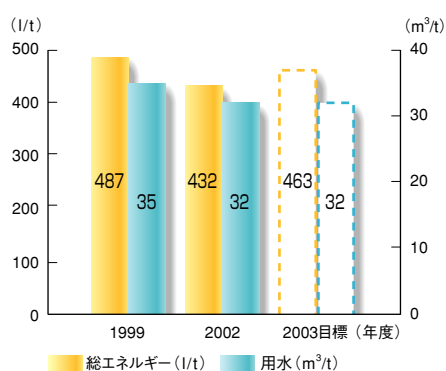
\*ISO14001の認証取得について、本年3月と5月に北神工場と船橋工場が取得しました。これで伊藤ハム本体のハム・ソーセージ及び調理加工食品の生産工場はすべて取得となりました。いまグループ会社の生産工場が、新たに環境マネジメントシステムの構築に取り組んでいます。

\*2002年度の環境監査については、監査計画に沿って8事業所を監査しました。

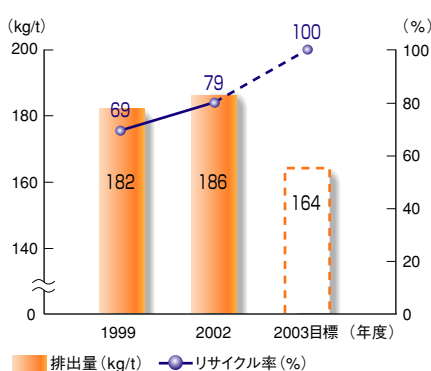
| 年度                                                 | 1999 | 2002 | 1999年度比 | 2003年目標 |
|----------------------------------------------------|------|------|---------|---------|
| 総エネルギー（l/t）                                        | 487  | 432  | ▲11.2%  | 463     |
| 用水（m <sup>3</sup> /t）                              | 35   | 32   | ▲10.2%  | 32      |
| 廃棄物の排出量（kg/t）                                      | 182  | 186  | 2.2%    | 164     |
| 二酸化炭素（CO <sub>2</sub> ）の排出量（kg-CO <sub>2</sub> /t） | 782  | 758  | ▲3.1%   | 719     |
| 廃棄物のリサイクル率                                         | 69%  | 79%  | 10P     | 100%    |

\*数値は生産原単位

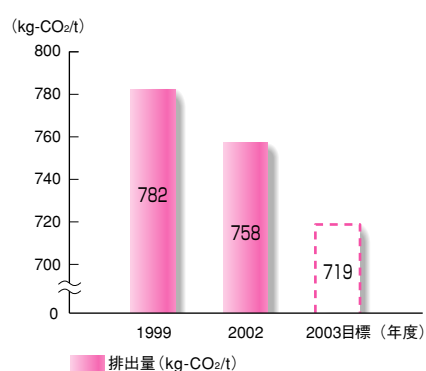
### ■ 総エネルギー・用水使用量の推移



### ■ 廃棄物排出量とリサイクル率の推移



### ■ 二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の排出量の推移



## 環境会計

環境会計は、環境経営のツールとして2001年度より導入しました。2002年度の環境会計は、環境省の公表した「環境会計ガイドライン2002年版」及びこれに準拠して策定した「伊藤ハムグループ環境会計集計マニュアル（2002年度版）」により集計しました。

### ● 集計方法

- ① 投資額及び減価償却費は環境保全目的100%のもの、また生産設備に付随したものを按分して計上しました。
- ② 環境保全効果及び経済効果については、その効果の総量（総金額）と原単位調整量（金額）の両方で集計しました。
- ③ 公表用フォーマットは『環境会計ガイドライン2002年版』を用いました。

### ● 2002年度の集計結果

集計期間：2002年4月～2003年3月

集計範囲：伊藤ハム株式会社（九州工場、六甲工場、西宮工場、豊橋工場、東京工場、船橋工場、北神工場）

伊藤ハムデイリー株式会社（東北工場、小樽工場）/伊藤ハム食品株式会社（小矢部工場）

### ■ 環境保全コスト（単位：千円）

| 分 類       | 主な取り組み内容                      | 投資額    | 費用額       |
|-----------|-------------------------------|--------|-----------|
| 事業エリア内コスト |                               | 88,428 | 1,164,694 |
| 公害防止コスト   | 廃水処理設備の改善、排煙脱臭設備の設置、環境関連設備の維持 | 37,669 | 626,480   |
| 地球環境保全コスト | 省エネルギー設備の設置、対策費用              | 30,351 | 135,795   |
| 資源循環コスト   | 廃棄物のリサイクル及び処理処分費用             | 20,408 | 402,419   |
| 上・下流コスト   | 容器包装の再商品化委託料                  | 0      | 44,976    |
| 環境活動コスト   | ISOマネジメントシステムの構築及び維持、社員教育費他   | 0      | 61,628    |
| 研究開発コスト   |                               | 0      | 0         |
| 社会活動コスト   | 工場の緑化、環境広告コスト                 | 0      | 17,506    |
| 環境損傷対応コスト | 重油燃料使用にともなう汚染賦課金              | 0      | 1,142     |
| 合 計       |                               | 88,428 | 1,289,946 |

### ■ 環境保全効果

| 効果の内容                |                               | 指標の分類                            | 指標の値    |        |
|----------------------|-------------------------------|----------------------------------|---------|--------|
|                      |                               |                                  | 総 量     | 原単位調整量 |
| 事業エリア内コストに<br>対応する効果 | 事業活動に投入する資源<br>に関する効果         | エネルギーの投入 (kl)                    | ▲2,644  | 3,907  |
|                      |                               | 用水の投入 (千m <sup>3</sup> )         | ▲234    | 242    |
|                      | 事業活動から排出する環境負荷<br>及び廃棄物に関する効果 | 二酸化炭素 (CO <sub>2</sub> ) の排出 (t) | ▲11,075 | ▲281   |
|                      |                               | 廃棄物の排出 (t)                       | ▲2,369  | 325    |

\*指標の値 総量：前期に対する削減量【前期投入量（排出量）－当期投入量（排出量）】

原単位調整量：生産原単位を加味した削減量【前期投入量（排出量）×（当期生産量／前期生産量）－当期投入量（排出量）】

\*エネルギーの投入量は購入電力、燃料、購入蒸気を原油換算した値 (kl)

### ■ 環境保全対策にともなう経済効果（単位：千円）

| 効果の内容 |                                | 総金額     | 原単位調整金額 |
|-------|--------------------------------|---------|---------|
| 収 益   | 廃棄物のリサイクルによる収益                 | 3,703   | —       |
| 費用削減  | 省エネルギーによるエネルギー費の削減（電力＋燃料＋購入蒸気） | 69,478  | 377,154 |
|       | 用水削減による経費の削減                   | ▲24,409 | 14,060  |
|       | 廃棄物処理費の削減                      | ▲45,623 | ▲10,882 |

\*指標の値 総金額：収益…当期収益

費用削減…前期に対する費用削減額【前期費用－当期費用】

原単位調整金額：生産原単位を加味した費用削減額【前期費用×（当期生産量／前期生産量）－当期費用】

# 5 環境負荷低減の取り組み

ハム・ソーセージ・調理加工食品の生産工場や各部門において、省エネルギー・省資源の取り組みをはじめ、温室効果ガスの排出の抑制と循環型社会の形成に向けてリサイクルの徹底など、さまざまな取り組みを行っています。

## 省エネルギーの取り組み

中期環境目標の達成に向けて、総エネルギーと用水の生産原単位の削減に取り組んでいます。

### 電力使用量の削減

生産工場では冷蔵庫などの冷却設備が多く、生産量の変動や季節(気温)により機器の負荷が変動します。負荷の状態に合わせて効率の良い運転をして無駄な電力の削減を図っています。

2002年度の電力原単位は1,087kwh/tで前年度比5.2%削減となりました。



高効率型蒸気ボイラー(東京工場)

### 燃料使用量の削減

2002年度は六甲工場、豊橋工場、東京工場で蒸気ボイラーを高効率型に交換し、都市ガスや重油燃料の削減を図りました。

2002年度の燃料原単位は新たにコージェネシステムを導入し、ハム・ソーセージの薫煙設備の排ガス対策を実施したため、177l/t(原油換算)で前年度比17.9%増加となりました。

### 用水使用量の削減

中期環境目標に基づき、職場ごとに目標を設定し、活動しています。可能な範囲で一度使用された水を再利用したり、廃水処理設備により浄化された水を工場内の灌漑用水にするなどの有効利用を行っています。

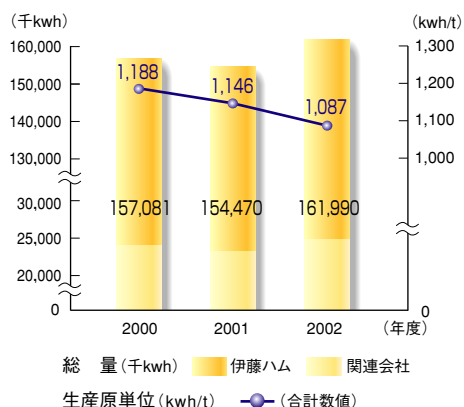
2002年度の用水原単位は32m³/tで、前年度比4.9%削減となりました。

### ■ エネルギー等使用量の推移

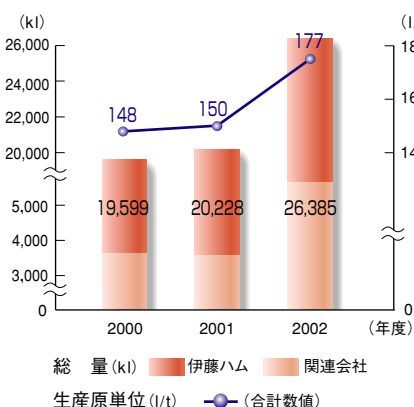
| 年度           |            | 伊 藤 ハ ム |         |         | 関 連 会 社 |        |        | 合 計     |         |         |
|--------------|------------|---------|---------|---------|---------|--------|--------|---------|---------|---------|
|              |            | 2000    | 2001    | 2002    | 2000    | 2001   | 2002   | 2000    | 2001    | 2002    |
| 電 力          | 総量(千kwh)   | 133,061 | 131,160 | 137,065 | 24,020  | 23,310 | 24,925 | 157,081 | 154,470 | 161,990 |
|              | 原単位(kwh/t) | 1,152   | 1,113   | 1,056   | 1,422   | 1,382  | 1,298  | 1,188   | 1,146   | 1,087   |
| 燃 料<br>*1    | 総量(kl)     | 15,968  | 16,631  | 20,728  | 3,630   | 3,596  | 5,658  | 19,599  | 20,228  | 26,385  |
|              | 原単位(l/t)   | 138     | 141     | 160     | 215     | 213    | 295    | 148     | 150     | 177     |
| 総エネルギー<br>*2 | 総量(kl)     | 51,229  | 52,027  | 54,155  | 9,961   | 9,773  | 10,290 | 61,225  | 61,801  | 64,445  |
|              | 原単位(l/t)   | 444     | 441     | 417     | 590     | 579    | 536    | 463     | 459     | 432     |
| 用 水          | 総量(千m³)    | 3,823   | 3,761   | 3,918   | 765     | 717    | 793    | 4,588   | 4,478   | 4,711   |
|              | 原単位(m³/t)  | 33      | 32      | 30      | 45      | 42     | 41     | 35      | 33      | 32      |

\*1:原油換算 \*2:総エネルギー:原油換算(購入電力+燃料+購入蒸気)

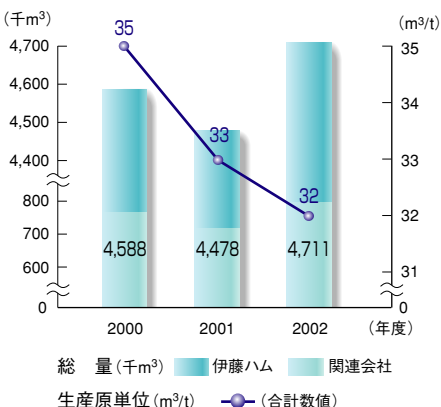
### ■ 電力使用量の推移



### ■ 燃料使用量の推移



### ■ 用水使用量の推移





## コージェネシステムの導入と稼働状況

2001年度の西宮工場での稼働に続き、2002年度には九州工場(発電機出力2,970kw)、豊橋工場(発電機出力3,465kw)、伊藤ハムデiyリー東北工場(発電機出力2,970kw)のコージェネシステムが稼働しました。

電力は工場の生産動力として利用するとともに、エンジンから発生する廃熱を回収して、生産工程で使用する蒸気や温水をつくり利用しています。

コージェネシステムの稼働により導入工場の総エネルギー原単位が低減しました。

### ■ 2002年度の総エネルギー原単位(1tの生産に必要なエネルギー) \*原油換算

| 工場名  | 原単位(l/t) | 前年度比(%) | 備考         |
|------|----------|---------|------------|
| 九州工場 | 502      | ▲8.8    | 2002年 8月稼働 |
| 西宮工場 | 432      | ▲7.5    | 2001年 7月稼働 |
| 豊橋工場 | 500      | ▲6.4    | 2002年 9月稼働 |
| 東北工場 | 591      | ▲9.6    | 2002年 8月稼働 |



コージェネシステムの稼働(東北工場)



伊藤ハムデiyリー東北工場ES課  
高橋 久満

2002年8月に、東北工場のコージェネシステムが稼働しました。1台当たり495kwの発電機を6台と、排気ガスの熱を蒸気として回収するための排ガスボイラーとエンジンの冷却水の熱を温水として回収するための熱交換器を組み合わせたもので、エネルギー効率の高いシステムになっています。システムは、当工場で使用する電力の約65%を安定して発電し、信頼性の高い設備です。

熱回収された蒸気、温水は生産工程の加熱ラインや、工程の洗浄用として利用しています。コージェネシステムの稼働により、工場のエネルギー原単位低減、エネルギー費用の低減に貢献しています。

## TOPICS

### 西宮工場のコージェネシステム稼働状況

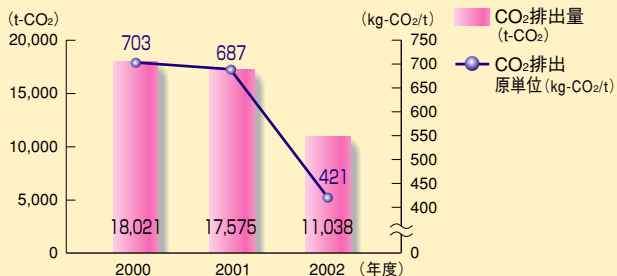
西宮工場の都市ガスを燃料とするコージェネシステムの稼働により、電力及びボイラーに使用する都市ガスの二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量が削減できました。

#### ■ 西宮工場のコージェネシステム稼働実績

|                                              | 2000年度 | 2001年度 | 2002年度 |
|----------------------------------------------|--------|--------|--------|
| 購入電力量(千kwh)                                  | 32,590 | 27,228 | 25,697 |
| 発電電力量(千kwh)                                  | 0      | 4,977  | 7,112  |
| ガス量(ボイラー+発電)(千m <sup>3</sup> )               | 2,970  | 3,653  | 4,123  |
| CO <sub>2</sub> 排出量(t-CO <sub>2</sub> )      | 18,021 | 17,575 | 11,038 |
| CO <sub>2</sub> 排出原単位(kg-CO <sub>2</sub> /t) | 703    | 687    | 421    |

\*コージェネシステムに関連する購入電力、発電電力、蒸気ボイラー用燃料のみ集計しました。

#### ■ 二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量と原単位

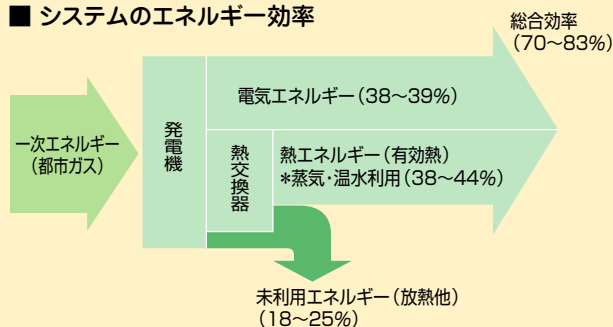


高効率ガスエンジン発電機



エンジンの廃熱を回収する排ガスボイラー

#### ■ システムのエネルギー効率



## 温室効果ガスと化学物質の排出抑制

エネルギーの有効利用による省エネルギーを推進し、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)などの温室効果ガスの排出抑制に努めています。また、冷凍設備に利用されている冷媒については、設備の管理を強化して大気中への流出低減に取り組んでいます。

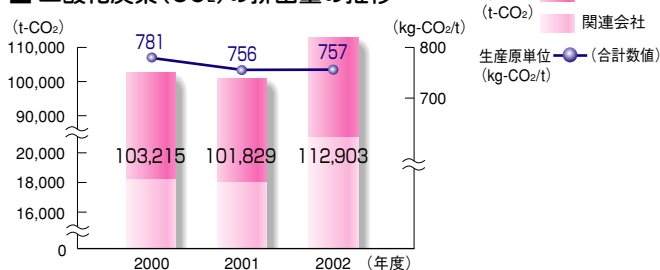
### 温室効果ガスの排出抑制

二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出は目標を設定して削減に取り組んでいますが、2002年度は生産量の増加と重油を燃料とするコージェネシステムの導入により、前年度比で10.8%、生産原単位で0.2%の増加となりました。

その他の温室効果ガスメタン(CH<sub>4</sub>)\*、一酸化二窒素(N<sub>2</sub>O)\*の2002年度の排出量はメタン12.6t、一酸化二窒素0.3tとなり、HFC、PFC、SF<sub>6</sub>の排出はありませんでした。

\* CH<sub>4</sub>、N<sub>2</sub>Oの排出量は、燃料の燃焼に由来する排出量

#### ■ 二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量の推移



#### ■ 二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量の推移 (t-CO<sub>2</sub>)

| 年度                            | 伊 藤 ハ ム |        |        | 関 連 会 社 |        |        | 合 計     |         |         |
|-------------------------------|---------|--------|--------|---------|--------|--------|---------|---------|---------|
|                               | 2000    | 2001   | 2002   | 2000    | 2001   | 2002   | 2000    | 2001    | 2002    |
| 電力                            | 47,503  | 45,048 | 42,443 | 8,575   | 8,322  | 6,240  | 56,078  | 53,369  | 48,683  |
| 燃料                            | 都市ガス    | 18,667 | 20,207 | 22,062  | —      | —      | 18,667  | 20,207  | 22,062  |
|                               | LPガス    | 8,061  | 7,913  | 8,177   | 1,317  | 1,398  | 9,378   | 9,311   | 9,757   |
|                               | 重油      | 5,983  | 5,640  | 13,754  | 8,340  | 8,177  | 14,323  | 13,817  | 27,374  |
|                               | 灯油      | 6      | 9      | 6       | 59     | 33     | 65      | 42      | 35      |
|                               | 蒸気(購入分) | 4,704  | 5,083  | 4,992   | —      | —      | 4,704   | 5,083   | 4,992   |
| 合 計                           | 84,924  | 83,900 | 91,434 | 18,291  | 17,930 | 21,470 | 103,215 | 101,829 | 112,903 |
| 生産原単位 (kg-CO <sub>2</sub> /t) | 736     | 712    | 704    | 1,083   | 1,063  | 1,118  | 781     | 756     | 757     |

\*エネルギーの二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出係数は環境省の『温室効果ガス排出量算定方法に関する検討結果(平成12年9月)』を採用しました。

### 大気汚染物質の排出抑制

法律で規制された設備による大気汚染物質は、生産工場ごとに規制値より厳しい自主基準値を設定して管理し、排出抑制に取り組んでいます。法規制されていない燃焼設備(燻煙装置等)の排気ガス浄化対策も継続的に進め、環境改善に取り組んでいます。

### 化学物質の排出抑制

PRTR法に該当する化学物質は、冷媒として冷凍空調設備に使用しているHCFC-22とナイプラインがあります。また消火設備のハロン1301と廃棄物となった高圧コンデンサに封入されたPCBを保有しています。冷凍空調設備の管理を強化して冷媒の漏出抑制に取り組んでいましたが、2002年度はHCFC-22の排出量を削減することが出来ませんでした。その他の化学物質の排出はありませんでした。



アンモニア冷媒の冷凍設備(九州工場)

#### ■ 代替フロン(HCFC-22)排出量の推移(単位:kg)

| 年 度     | 2000  | 2001  | 2002   |
|---------|-------|-------|--------|
| HCFC-22 | 9,608 | 8,809 | 10,062 |



ガス式消煙装置(西宮工場)

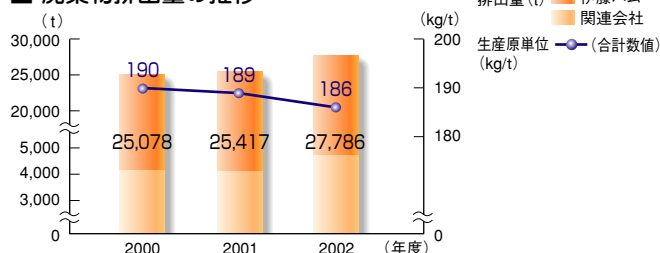
## 廃棄物の削減と有効利用

廃棄物を削減し、リサイクルを進めるために、各工場で廃棄物集積場を整備するとともに、計量システムを導入しています。廃棄物の抑制対策を行い、分別と発生量の把握を繰り返して廃棄物の削減に努めています。ISO14001認証取得事業所が増加するにともない、産業廃棄物、一般廃棄物の発生が抑制され、リサイクル率が向上しています。

### 廃棄物の削減

生産工程で使用する原料の歩留まりの向上や機械の改良により、食品廃棄物の削減を図るとともに、製品の包装材料の薄膜化や、包装フィルムの切り替え時の廃棄ロス削減、廃プラスチックの削減対策を実施しました。しかし、2002年度は生産量が増加したことにより、廃棄物の排出量は27,786tとなり前年度比9.3%の増加（生産原単位は186kg/tで前年度比3kg/tの減少）となりました。

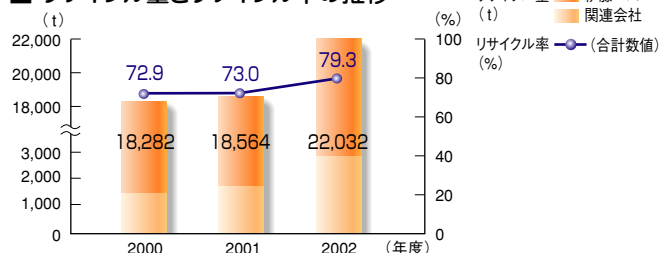
#### ■ 廃棄物排出量の推移



### 廃棄物のリサイクル

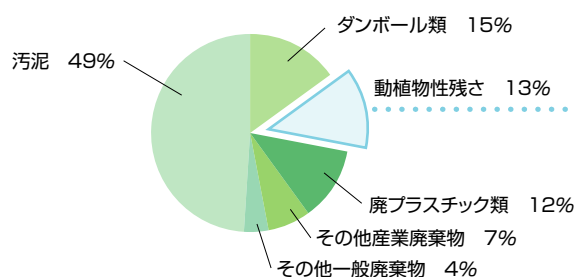
廃棄物の発生を抑制するとともにリサイクルを進めています。各工場では、リサイクルに支障をきたさないように、分別排出を徹底しています。2002年度のリサイクル率は79.3%で前年度比6.3ポイント上昇しました。東京工場と小樽工場で概ね100%のリサイクルを達成しています。

#### ■ リサイクル量とリサイクル率の推移



### 排出量の割合

生産工場から排出される廃棄物の排出割合は、次のとおりです。



#### 食品廃棄物のリサイクル

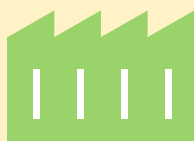
食品リサイクル法では、生産工程などで発生する食品廃棄物の再生利用率を平成18年度までに20%以上に向上させなければならないとされています。

伊藤ハムグループの生産工場では、規格に合った原料を仕入れて使用の合理化に努めたり、食品加工機械やコンベアーに受け皿やカバーを取り付けるなどの工夫をして発生の抑制に努めています。生産工程で発生したくず肉・脂などの食品廃棄物は、リサイクルに支障をきたさないように分別を徹底し、肥料や飼料などへリサイクルしています。

現在、10工場の食品廃棄物のリサイクル率は、50.8%となっています。

## TOPICS

### 食品廃棄物のリサイクルのフロー



(西宮工場、六甲工場、北神工場)



収集運搬



発酵



有機肥料

西宮工場、六甲工場、北神工場で発生した動植物性残さは、外部の再生処理施設に搬送し、木屑やその他の有機性残さと混合し、発酵装置で発酵後熟成されて有機肥料になります。他の工場についても概ね同様のフローで食品廃棄物のリサイクルに取り組んでいます。



再生処理施設の全景



## その他の環境負荷低減活動

各部門において、事業活動にともなう環境負荷の低減に取り組んでいます。

### オフィス関係

オフィスでは、コピー用紙、OA用紙など紙類の使用量の削減に取り組んでいます。また、各部門に「IT推進担当者」を配置して、業務におけるペーパーレス化を進めています。廃棄物の分別については、紙・プラスチック・ペットボトル・金属類・電池類・食品廃棄物類などの分別箱を設置し、リサイクルに支障をきたさないように分別排出を行っています。

さらに、食堂やトイレの手洗い場ではこれまでのペーパータオルから、ジェットタオルへの切り替えを進め、紙ごみの排出量の削減に取り組んでいます。



本社事務所に設置された紙類分別回収BOX



本社食堂手洗い場のジェットタオル

### 営業関係

1998年度より、営業車輛に業界初の天然ガス自動車を導入しました。

2002年度は2台導入し、合計27台を保有しています。さらに、伊藤ハムグループ全体で「アイドリングストップ運動」を実施し、大気汚染防止や地球温暖化防止に努めています。



天然ガス(CNG)車



伊藤ハム販売関西 大阪旭営業所  
青野 隆志

天然ガス車には2000年8月から乗っています。それまでは、ディーゼル車に乗っていました。天然ガス車は、ディーゼル車に比べると、静かだし、坂道などでも黒煙が出ないところがクリーンで、環境への影響が少ない車だと実感しています。最近、天然ガススタンドで待つことが多くなり、天然ガス車が増えてきていると感じています。

難点は、天然ガススタンドが少ないことです。1日の走行距離や燃費などを考えると、スタンドを増やして欲しいと思います。そうすれば使い勝手もよくなるでしょう。大気汚染を防止するためにも、スタンドを充実させ、天然ガス車を導入する企業がますます増えてほしいものです。



営業車輛に表示しているアイドリングストップシール

### 工場関係

従業員と環境のかかわりを考え、工場勤務する従業員の作業着の素材に、再生ペット樹脂を採用しました。

2002年度は、まず船橋工場で採用し、順次他の工場へと広げていく計画です。



再生ペット樹脂を使用した作業着(船橋工場)



船橋工場商品開発室  
田口 智子

伊藤ハムグループの各工場に先駆けて、2002年12月に「再生ペット樹脂」を使用した作業着に変更になりました。これまでの作業着との大きな違いは、エコ素材(ペットボトルの再利用)を使用して環境に配慮していることですが、上着の前ボタンをファスナーにし、袖口とズボンの裾を絞っている点など形状も工夫しており、製品への異物混入や毛髪混入を未然に防ぐように食品衛生面にも配慮されています。

エコ素材を使用した作業着への変更は、当社の経営姿勢である「環境に配慮し、その保全と社会との共生を図る努力を実践する」ことであり、循環型社会形成への取り組みのひとつだと思います。この新しい作業着を使用するようになって、食品衛生面への配慮とともに、今まで以上に環境への影響を考えた行動がとれるよう、私自身の意識も変化したように思います。

## 環境月間の取り組み

毎年6月5日は「世界環境デー」です。日本ではこの日を「環境の日」、6月の1ヵ月間を「環境月間」として定めています。環境月間期間中、従業員の環境保全についての関心と理解を深め、環境活動に対する意欲を高めるためさまざまな取り組みを行っています。

### <取り組み事例>

ポスターの掲示、環境標語の募集、環境パトロール、工場内緑地整備、騒音・振動等の測定、公害防止施設の整備、工場外周の清掃などを行っています。



環境月間の立看板により、従業員の意識を高揚(東京工場)

## その他

### 商品の環境負荷低減

商品については、主として商品の包装材の減量、有害物質の除去などの環境負荷低減に取り組んでいます。

#### ●さわやかパックシリーズ包装材の減量

スライスパックの主力商品「さわやかパックシリーズ」の包装材については、すでに脱塩素系フィルムを使用していますが、さらに軽量化を実施しました。トレイパックの底材の厚みを減らすことにより、包装材トータルで減量し、商品使用時の環境負荷の低減に取り組んでいます。



#### ●あらびきグルメウインナーの包装材に水溶性インキを使用

ウインナーの主力商品「あらびきグルメウインナー」の包装材に、環境にやさしい水溶性インキを使用しました。水溶性インキは、有機溶剤を使用せずに、溶剤に水とアルコールのみを使用し、有害化学物質を排出しない環境にやさしいインキです。



### 識別表示、材質表示

平成13年4月より、従来のスチール缶やアルミ缶、ペットボトルに加えて、プラスチック製容器包装と紙製容器包装への識別表示も義務化されています。

#### ●包装材の識別・材質表示の実施

資源有効利用促進法により義務づけられているプラスチック製容器包装と紙製容器包装に識別表示を実施しています。プラスチック製容器包装については、プラスチックのリサイクル推進のため、材質表示も併せて実施しています。



当社の包装紙とバック類



製品の表示例

#### ●ダンボールの識別マーク

資源有効利用促進法ではダンボールの識別表示は義務化されていませんが、自主運用によりダンボール識別表示を進めています。



### ヴィッセル神戸の応援メガホンに再生ペット樹脂を採用

伊藤ハムが支援するプロサッカーチーム「ヴィッセル神戸」の“社員応援デー”で、従業員に配布している応援メガホンに再生ペット樹脂を採用しました。循環型社会形成への配慮(資源の有効利用)と従業員の環境意識の啓発を目的としています。



伊藤ハムは環境問題に積極的に取り組んでいます。



# 6 環境コミュニケーション

伊藤ハムグループでは、地球環境問題への取り組みに社外のお客様や従業員との双方向のコミュニケーションが不可欠であると考え、社内外からの情報受信、社内外への情報発信を効果的に行うために、次のような活動を実施しています。

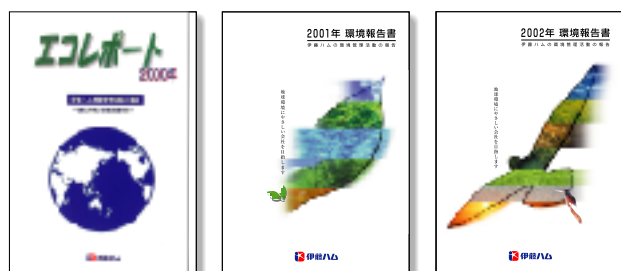
## 情報開示

お客様とのコミュニケーションについては、環境報告書の発行やホームページの活用などにより、環境に関する情報開示を積極的に実施しています。また、従業員とのコミュニケーションについては、社内報や社内イントラネットなどにより、情報共有化を図っています。

### 環境報告書の発行

環境への取り組みをご理解いただくために、2000年から毎年環境報告書を発行しています。

主な配布先はお客様、企業、行政機関、学校、従業員などです。



2000年版  
(2000年8月発行)

2001年版  
(2001年7月発行)

2002年版  
(2002年6月発行)

2000年8月に、ホームページに「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」を開設し、環境報告書を開示しました。2002年10月からは環境報告書のほか、エコトピックスによる最新の環境活動の紹介や、環境報告書の請求もできるようになっています。お客様とのコミュニケーションを円滑に行うために、環境専用のメールアドレスも設けました。また、オフィス及び工場事務所のお客様待合室にラックを設置し、来社されたお客様が自由に環境報告書を閲覧・お持ち帰りいただけるようにしています。

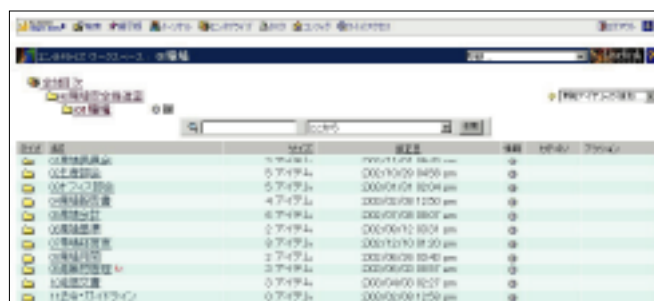
### 環境情報の開示及び共有化

社内外において環境保全活動を一層推進するためには、従業員の環境意識と関心の向上は欠かせません。従業員の環境に対する意識・関心を高めるため、社内イントラネットを利用して環境に関する情報やデータを開示しています。環境報告書、グリーン購入ガイドブック、環境月次データなどを掲載し、必要なときに必要な情報を最新の状態で閲覧できるように管理に努めています。

(ホームページ: <http://www.itoham.co.jp> 専用メール: [eco@itoham.co.jp](mailto:eco@itoham.co.jp))



お客様待合室のラック  
(北神工場)



社内イントラネットの画面



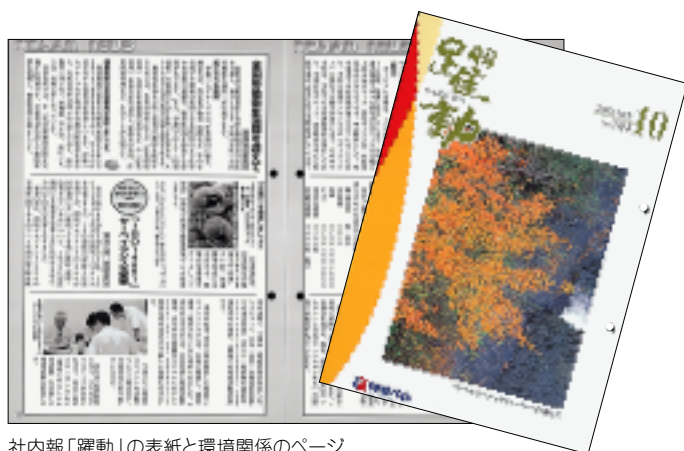
## 従業員教育

従業員の環境基本方針の理解と、公私を通じての環境保全への取り組み意識を向上させるため、社内外の環境教育及び環境に関する社内広報活動を実施しています。

- 新入社員の環境教育
- 環境マネジメントシステム教育
- 工場における専門教育
- 社内報「躍動」に環境関係記事を毎月掲載
- 職場に「環境情報掲示板」を設置



新入社員の環境教育（環境安全推進室）



社内報「躍動」の表紙と環境関係のページ



環境情報掲示板（西宮工場）



## 社外からの評価

### 表彰

2002年10月伊藤ハムは、日本食糧新聞社の「平成14年度日食・環境資源協力賞」（後援：農林水産省・環境省）を受賞しました。弊社の省エネルギー、廃棄物リサイクルなど総合的な取り組みが評価されたものです。今後も、環境保全活動全般にわたり、積極的に取り組んでいきます。



日食・環境資源協力賞の盾と掲載記事

## ボランティア支援制度

社員一人ひとりが自主的に行う社会貢献活動を支援するため、ボランティア休暇制度を導入しています。

環境保全活動、災害時の被災者救助活動や社会福祉活動などのボランティア活動に参加する場合、積立保存年休の範囲内で最高10日間の休暇を取得できるボランティア休暇制度を導入しています。



社内報「躍動」で活動状況を紹介

## 環境社会活動

2002年11月に策定された「社会貢献活動理念」「活動方針」に基づき、環境社会活動に積極的に取り組んでいます。

### 国際ビーチクリーンアップキャンペーン

国連環境計画（UNEP）の公認で毎年2回（春・秋）開催される「国際ビーチクリーンアップキャンペーン」に賛同し、協賛参加しています。

2002年度は、4月14日（日）と9月22日（日）に須磨海岸（兵庫県神戸市）で開催されたクリーンアップキャンペーンに、兵庫県及び大阪府在住の従業員と家族が活動に参加しました。なお、参加者は、4月：25名、9月：20名でした。



神戸・須磨海岸クリーンアップ活動中



### 工場周辺の清掃美化活動

各工場では、工場周辺の道路等の清掃美化活動を定期的に行っています。これは、事業活動を継続していくうえでの社会的責任と考え、今後も継続していきます。



工場周辺の清掃美化活動（小樽工場）

### 環境関連団体への参加

地域に密着した環境保全活動を推進し、環境コミュニケーションを円滑に行うため、各地域の環境関連団体に参加しています。

- こども環境活動支援協会** (<http://www2.ocn.ne.jp/~leaf-j/>)  
市民・行政・事業者の連携を深めながら、次代になう子どもたちの環境活動を応援するために、平成10年（1998年）4月に設立された特定非営利活動法人（NPO法人）。
  - グリーン購入ネットワーク** (<http://eco.goo.ne.jp/gpn/index.html>)  
環境への負荷が少ない製品やサービスの優先的購入を進める全国ネットワーク。
  - クリーンアップ関西事務局** (<http://www.page.sannet.ne.jp/kfuru/>)  
関西地区におけるビーチクリーンアップ活動の拠点となるべく、1991年秋に設立された非営利の民間団体。
  - プラスチック容器包装リサイクル推進協議会** (<http://www.pprc.gr.jp/>)  
容器包装リサイクル法に基づき、プラスチック分野での第二種ペットボトル以外のその他プラスチックにおける特定事業者の任意団体として、平成10年4月設立。
  - 瀬戸内海環境保全協会** (<http://www.seto.or.jp/setokyo/>)  
兵庫県における瀬戸内海の環境保全の推進を図り、快適で人間性豊かな生活ゾーンの確保に資することを目的として、県・市町、漁業者、NPO・住民団体、企業により、昭和54年3月に設立。
  - 各地方の農林関連企業環境対策協議会**
  - 各県、市の環境保全協議会**
- その他の環境関連団体に参加しています。



参加者の声  
人事部 人事課  
長田 真哉

ボランティア活動は、この「クリーンアップin須磨」の参加が初めてです。きっかけは、私の趣味が「釣り」ということもあって、日頃の感謝を込めて参加しました。いざ、砂浜で清掃を行うと想像以上にゴミが多く、中でもタバコの吸殻の多さには驚きました。

年々、深刻度が増しているゴミ問題ですが、その問題は釣り場でも同じで、この問題が発端となり、釣り場が閉鎖されたり、立ち入り禁止になるといったケースも出てきています。「自分の出したゴミは自分で持ち帰る」を一人ひとりが実践すれば、ゴミ問題は、決して難しい問題ではないはずです。

スローライフやスローフードという言葉が脚光を浴びつつありますが、便利で豊かな生活が当たり前になった現在、私達が自然環境とどう共存していくかをあらためて考える良い機会となりました。

私自身も身近なところから努力していこうと思っています。



## 社会とのかかわり

伊藤ハムグループは、2002年11月に社会貢献活動理念と活動方針を策定しました。2003年4月以降、地球環境への配慮と地域社会との共生を目指して、継続的に社会貢献活動に取り組んでいきます。

### 社会貢献活動理念

伊藤ハムグループの基本理念のもと、良き企業市民として、地球環境への配慮と社会との共生を大切にして、社会貢献活動を持続的に推進します。

### 活動方針

- 「食と健康」の分野で、世界の人々のお役に立つ活動を行います。
- 地域社会に、その良き一員として貢献し、信頼関係を築きます。
- ユニセフ活動及び国内外の被災地救済活動を支援します。
- 森林や河川などの自然環境保護活動を支援します。
- 従業員の意思と責任に基づく、ボランティア活動を支援します。

### 推進組織

社会貢献推進委員会事務局

〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号

伊藤ハム株式会社 総務部総務室

TEL:0798-66-1231 FAX:0798-64-1140

#### 社会貢献推進委員会

委員長 (総務部長)

副委員長 (環境安全推進室長)

事務局

地域社会貢献部会

ユニセフ支援部会

自然環境保護部会

ボランティア部会



### 2003年度の主な活動内容(計画)

2003年度は主に次のような活動を行う計画です。

#### ●ユニセフ活動支援

従業員の募金と会社の同額援助によるマッチングギフトにより、ユニセフを支援します。

#### ●六甲山系での森林保全・育成活動の支援

2002年、緑化100周年を迎えた六甲山系で、これからの100年の森林保全と育成を目指して、神戸市が市民との協働ですめる「こうべ市民演習林」(仮称)の活動を支援します。

#### ●ボランティア活動の推進

従業員のボランティア活動のサポートを通じ、社会人としての、より高いマインド形成と、地域社会への貢献を果たします。



総務部 総務室 社会貢献活動担当  
原 満信

入社以来営業職の私は、この春初めて営業職以外の業務に就くことになりました。それが「社会貢献活動担当」。担当してみると、環境、教育、芸術、福祉など、多岐にわたる社会貢献の分野があることにびっくり。いうまでもなく、勉強しなければならないことも山ほど…。これからの課題は、自身はもちろん社内の意識改革。伊藤ハムグループ全従業員に社会貢献の大切さを理解してもらえよう、努力してまいります。



# 7 環境パフォーマンス

## 伊藤ハムの取り組み実績

九州工場

所在地 〒841-0202 佐賀県三養基郡基山町大字長野970-1  
主要生産品目 アルトバイエルン、あらびきグルメW、チキンナゲット、備長炭ハンバーグ

### 1.エネルギー使用量と二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量(生産原単位)

|                                         | 2001年度 | 2002年度 | 増減(%) |
|-----------------------------------------|--------|--------|-------|
| 電力(kwh/t)                               | 1,232  | 1,148  | ▲6.8  |
| 燃料(l/t)                                 | 224    | 305    | 36.5  |
| 用水(m <sup>3</sup> /t)                   | 53     | 44     | ▲18.1 |
| CO <sub>2</sub> (kg-CO <sub>2</sub> /t) | 959    | 1,021  | 6.5   |

### 2.廃棄物の排出量とリサイクル率

|           | 2001年度 | 2002年度 | 増減(%) |
|-----------|--------|--------|-------|
| 排出量(t)    | 3,614  | 3,936  | 8.9   |
| リサイクル率(%) | 90     | 91.4   | 1.4P  |

### 3.排水の水質関係目標達成状況

|           | 規制値     | 自主基準値   | 実測値  |     |     |
|-----------|---------|---------|------|-----|-----|
|           |         |         | 最大値  | 最小値 | 平均値 |
| pH        | 5.8~8.6 | 6.0~8.5 | 8.4  | 8.0 | —   |
| BOD(mg/L) | 30      | 25      | 9.4  | —   | 2.5 |
| SS(mg/L)  | 25      | 20      | 14.0 | —   | 8.8 |

### 4.大気関係の目標達成状況

|                          | 施設名   | 規制値  | 自主基準値 | 実測値   |       |
|--------------------------|-------|------|-------|-------|-------|
|                          |       |      |       | 最大値   | 平均値   |
| SOx(Nm <sup>3</sup> /h)  | A(2基) | 2.69 | —     | —     | —     |
|                          | B(6基) | 2.0  | 0.1   | 0.15  | 0.14  |
| NOx(ppm)                 | A(2基) | 150  | 130   | 108   | 105   |
|                          | B(6基) | 950  | 750   | 700   | 655   |
| ばいじん(g/Nm <sup>3</sup> ) | A(2基) | 0.1  | 0.01  | 0.001 | 0.001 |
|                          | B(6基) | 0.4  | 0.05  | 0.01  | 0.01  |

## TOPICS

工場の玄関口や敷地内には緑地帯が設けられています。写真は本社・西宮工場の玄関口の緑地帯です。芝生へ散水するために散水装置を設置していますが、散水に使用する水は廃水処理施設で浄化した水を有効利用しています。



注釈①(排水の水質関係目標達成状況について)

\* ( ) 数値は日間平均値。

注釈②(大気関係の目標達成状況について)

\*施設名A,B,Cは同規模(同程度も含む)のものを区分。

\*九州工場、六甲工場、西宮工場、東京工場、北神工場のSOxについては都市ガスもしくはLPガス使用のため、測定実績なし。

\*六甲工場、西宮工場、豊橋工場、北神工場は小型ボイラーでかつ軽質液体燃料もしくは都市ガス使用のため、ばいじん、NOxの規制なし。

\*小矢部工場、小樽工場、有明ミート工場については、小型ボイラーでかつ軽質液体燃料を使用のため、NOxの規制基準なし。

六甲工場

所在地 〒658-0033 兵庫県神戸市東灘区向洋町西5-7  
主要生産品目 バルキー、醇もも・コース、ローストビーフ

### 1.エネルギー使用量と二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量(生産原単位)

|                                         | 2001年度 | 2002年度 | 増減(%) |
|-----------------------------------------|--------|--------|-------|
| 電力(kwh/t)                               | 1,669  | 1,634  | ▲2.1  |
| 燃料(l/t)                                 | 144    | 144    | 0.2   |
| 用水(m <sup>3</sup> /t)                   | 26     | 26     | 1.1   |
| CO <sub>2</sub> (kg-CO <sub>2</sub> /t) | 856    | 844    | ▲1.3  |

### 2.廃棄物の排出量とリサイクル率

|           | 2001年度 | 2002年度 | 増減(%) |
|-----------|--------|--------|-------|
| 排出量(t)    | 1,138  | 853    | ▲25.0 |
| リサイクル率(%) | 48.4   | 61.4   | 13.0P |

### 3.排水の水質関係目標達成状況

|           | 規制値     | 自主基準値   | 実測値  |     |      |
|-----------|---------|---------|------|-----|------|
|           |         |         | 最大値  | 最小値 | 平均値  |
| pH        | 5.8~8.6 | 5.8~8.6 | 7.5  | 7.1 | —    |
| BOD(mg/L) | 200     | 180     | 82.0 | —   | 16.1 |
| SS(mg/L)  | 100     | 90      | 13.0 | —   | 7.2  |

### 4.大気関係の目標達成状況

|                          | 施設名   | 規制値  | 自主基準値 | 実測値   |       |
|--------------------------|-------|------|-------|-------|-------|
|                          |       |      |       | 最大値   | 平均値   |
| SOx(K値)                  | A(4基) | 1.17 | —     | —     | —     |
| NOx(ppm)                 | A(4基) | —    | 40    | 21    | 20    |
| ばいじん(g/Nm <sup>3</sup> ) | A(4基) | —    | 0.02  | 0.002 | 0.001 |

西宮工場

所在地 〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4-27  
主要生産品目 アルトバイエルン、あらびきグルメW、ロイヤルボール、さわやかバックス

### 1.エネルギー使用量と二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量(生産原単位)

|                                         | 2001年度 | 2002年度 | 増減(%) |
|-----------------------------------------|--------|--------|-------|
| 電力(kwh/t)                               | 1,250  | 1,156  | ▲7.6  |
| 燃料(l/t)                                 | 187    | 192    | 2.6   |
| 用水(m <sup>3</sup> /t)                   | 30     | 28     | ▲6.1  |
| CO <sub>2</sub> (kg-CO <sub>2</sub> /t) | 715    | 670    | ▲6.2  |

### 2.廃棄物の排出量とリサイクル率

|           | 2001年度 | 2002年度 | 増減(%) |
|-----------|--------|--------|-------|
| 排出量(t)    | 5,006  | 5,200  | 3.9   |
| リサイクル率(%) | 71.4   | 75.0   | 3.6P  |

### 3.排水の水質関係目標達成状況

|           | 規制値     | 自主基準値   | 実測値  |     |     |
|-----------|---------|---------|------|-----|-----|
|           |         |         | 最大値  | 最小値 | 平均値 |
| pH        | 5.8~8.6 | 6.5~8.5 | 7.7  | 7.0 | —   |
| BOD(mg/L) | 30(20)  | 15      | 13.0 | —   | 4.2 |
| SS(mg/L)  | 30(20)  | 20      | 8.0  | —   | 3.4 |

### 4.大気関係の目標達成状況

|                          | 施設名      | 規制値  | 自主基準値 | 実測値   |       |
|--------------------------|----------|------|-------|-------|-------|
|                          |          |      |       | 最大値   | 平均値   |
| SOx(t/y)                 | A&B(14基) | 1.3  | —     | —     | —     |
| NOx(ppm)                 | A(12基)   | 60   | 45    | 58    | 42    |
|                          | B(2基)    | 150  | 120   | 35    | 27    |
| ばいじん(g/Nm <sup>3</sup> ) | A(12基)   | 0.05 | 0.02  | 0.008 | 0.005 |
|                          | B(2基)    | 0.05 | 0.02  | 0.003 | 0.002 |

所在地 〒441-8686 愛知県豊橋市藤並町字藤並73  
 主要生産品目 アルトバイエルン、あらびきグルメW、ポークピッツ、朝のフレッシュベーコン、生ハム

1. エネルギー使用量と二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) 排出量 (生産原単位)

|                                         | 2001年度 | 2002年度 | 増減 (%) |
|-----------------------------------------|--------|--------|--------|
| 電力(kwh/t)                               | 1,415  | 1,356  | ▲4.2   |
| 燃料(l/t)                                 | 159    | 238    | 49.6   |
| 用水(m <sup>3</sup> /t)                   | 47     | 45     | ▲4.3   |
| CO <sub>2</sub> (kg-CO <sub>2</sub> /t) | 939    | 1,002  | 6.8    |

## 2. 廃棄物の排出量とリサイクル率

|            | 2001年度 | 2002年度 | 増減 (%) |
|------------|--------|--------|--------|
| 排出量 (t)    | 2,479  | 2,883  | 16.3   |
| リサイクル率 (%) | 76.4   | 80.2   | 3.8P   |

## 3. 排水の水質関係目標達成状況

|           | 規制値      | 自主基準値   | 実測値  |     |     |
|-----------|----------|---------|------|-----|-----|
|           |          |         | 最大値  | 最小値 | 平均値 |
| pH        | 5.8~8.6  | 6.5~8.5 | 8.0  | 7.1 | —   |
| BOD(mg/L) | 120(100) | 60      | 28.0 | —   | 9.9 |
| SS(mg/L)  | 160(120) | 60      | 10.0 | —   | 5.8 |

## 4. 大気関係の目標達成状況

|                           | 施設名    | 規制値  | 自主基準値 | 実測値   |       |
|---------------------------|--------|------|-------|-------|-------|
|                           |        |      |       | 最大値   | 平均値   |
| SOx (Nm <sup>3</sup> /h)  | A (7基) | 2.2  | 1.0   | 0.05  | 0.04  |
|                           | B (7基) | 1.01 | —     | 0.19  | 0.17  |
| NOx (ppm)                 | A (7基) | —    | 180   | 100   | 91    |
|                           | B (7基) | 400  | —     | 300   | 200   |
| ばいじん (g/Nm <sup>3</sup> ) | A (7基) | —    | 0.1   | 0.002 | 0.002 |
|                           | B (7基) | 0.1  | —     | 0.009 | 0.008 |

所在地 〒277-8586 千葉県柏市根戸1-3  
 主要生産品目 アルトバイエルン、あらびきグルメW、ポークピッツ、チーズイン、朝のフレッシュロース

1. エネルギー使用量と二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) 排出量 (生産原単位)

|                                         | 2001年度 | 2002年度 | 増減 (%) |
|-----------------------------------------|--------|--------|--------|
| 電力(kwh/t)                               | 976    | 946    | ▲3.1   |
| 燃料(l/t)                                 | 135    | 131    | ▲3.4   |
| 用水(m <sup>3</sup> /t)                   | 34     | 34     | ▲0.1   |
| CO <sub>2</sub> (kg-CO <sub>2</sub> /t) | 593    | 574    | ▲3.2   |

## 2. 廃棄物の排出量とリサイクル率

|            | 2001年度 | 2002年度 | 増減 (%) |
|------------|--------|--------|--------|
| 排出量 (t)    | 5,593  | 6,250  | 11.7   |
| リサイクル率 (%) | 99.98  | 99.98  | —      |

## 3. 排水の水質関係目標達成状況

|           | 規制値     | 自主基準値   | 実測値  |     |     |
|-----------|---------|---------|------|-----|-----|
|           |         |         | 最大値  | 最小値 | 平均値 |
| pH        | 5.8~8.6 | 5.8~8.6 | 8.0  | 7.3 | —   |
| BOD(mg/L) | 10      | 8       | 10.0 | —   | 3.2 |
| SS(mg/L)  | 20      | 10      | 19.0 | —   | 4.7 |

## 4. 大気関係の目標達成状況

|                           | 施設名     | 規制値   | 自主基準値 | 実測値   |       |
|---------------------------|---------|-------|-------|-------|-------|
|                           |         |       |       | 最大値   | 平均値   |
| SOx (Nm <sup>3</sup> /h)  | A (2基)  | 0.025 | —     | —     | —     |
|                           | B (12基) | 0.272 | —     | —     | —     |
| NOx (ppm)                 | A (2基)  | 150   | 120   | 95    | 68    |
|                           | B (12基) | 150   | 120   | 84    | 43    |
| ばいじん (g/Nm <sup>3</sup> ) | A (2基)  | 0.1   | 0.08  | 0.003 | 0.003 |
|                           | B (12基) | 0.1   | 0.08  | 0.005 | 0.002 |

所在地 〒273-0014 千葉県船橋市高瀬町24-28  
 主要生産品目 巨匠の彩、元祖あぶり焼チキン、備長炭ハンバーグ

1. エネルギー使用量と二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) 排出量 (生産原単位)

|                                         | 2001年度 | 2002年度 | 増減 (%) |
|-----------------------------------------|--------|--------|--------|
| 電力(kwh/t)                               | 1,499  | 1,461  | ▲2.5   |
| 燃料(l/t)                                 | 65     | 72     | 11.0   |
| 用水(m <sup>3</sup> /t)                   | 34     | 33     | ▲4.5   |
| CO <sub>2</sub> (kg-CO <sub>2</sub> /t) | 1,169  | 1,133  | ▲3.1   |

## 2. 廃棄物の排出量とリサイクル率

|            | 2001年度 | 2002年度 | 増減 (%) |
|------------|--------|--------|--------|
| 排出量 (t)    | 2,051  | 2,150  | 4.8    |
| リサイクル率 (%) | 48.6   | 52.4   | 3.8P   |

## 3. 排水の水質関係目標達成状況

|           | 規制値     | 自主基準値   | 実測値   |     |      |
|-----------|---------|---------|-------|-----|------|
|           |         |         | 最大値   | 最小値 | 平均値  |
| pH        | 5.8~8.6 | 5.8~8.6 | 7.4   | 6.8 | —    |
| BOD(mg/L) | 350     | 300     | 89.0  | —   | 78.0 |
| SS(mg/L)  | 300     | 100     | 102.0 | —   | 80.0 |

所在地 〒651-1431 兵庫県西宮市阪神流通センター1-114  
 主要生産品目 レストランハンバーグ、レストラントンカツ、焼肉商材、すきやき商材

1. エネルギー使用量と二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) 排出量 (生産原単位)

|                                         | 2001年度 | 2002年度 | 増減 (%) |
|-----------------------------------------|--------|--------|--------|
| 電力(kwh/t)                               | 463    | 456    | ▲2.0   |
| 燃料(l/t)                                 | 67     | 68     | 2.6    |
| 用水(m <sup>3</sup> /t)                   | 9      | 9      | 7.3    |
| CO <sub>2</sub> (kg-CO <sub>2</sub> /t) | 286    | 286    | ▲0.1   |

## 2. 廃棄物の排出量とリサイクル率

|            | 2001年度 | 2002年度 | 増減 (%) |
|------------|--------|--------|--------|
| 排出量 (t)    | 1,400  | 1,761  | 25.7   |
| リサイクル率 (%) | 73.7   | 84.8   | 11.1P  |

## 3. 排水の水質関係目標達成状況

|           | 規制値     | 自主基準値   | 実測値   |     |      |
|-----------|---------|---------|-------|-----|------|
|           |         |         | 最大値   | 最小値 | 平均値  |
| pH        | 5.7~8.7 | 5.7~8.7 | 7.4   | 6.6 | —    |
| BOD(mg/L) | 300     | 200     | 111.0 | —   | 55.5 |
| SS(mg/L)  | 300     | 200     | 228.0 | —   | 93.1 |

## 4. 大気関係の目標達成状況

|                           | 施設名    | 規制値  | 自主基準値 | 実測値   |       |
|---------------------------|--------|------|-------|-------|-------|
|                           |        |      |       | 最大値   | 平均値   |
| SOx (K値)                  | A (3基) | 1.17 | —     | —     | —     |
| NOx (ppm)                 | A (3基) | —    | 60    | 34    | 31    |
| ばいじん (g/Nm <sup>3</sup> ) | A (3基) | —    | 0.05  | 0.003 | 0.002 |

## TOPICS

生産工程から排出された水は、活性汚泥法による廃水処理施設で処理・浄化します。写真は西宮工場敷地内の池で、処理・浄化された水を利用して養鯉しています。



## 関連会社の取り組み実績

### 伊藤ハムデリー株式会社へ東北工場

所在地 〒987-2195 宮城県栗原郡高清水町来光沢20  
 主要生産品目 アルトバイエルン、あらびきグルメW、チキンナゲット、チキンボンボン、豚角煮

#### 1. エネルギー使用量と二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量(生産原単位)

|                                         | 2001年度 | 2002年度 | 増減(%) |
|-----------------------------------------|--------|--------|-------|
| 電力(kwh/t)                               | 1,549  | 1,430  | ▲7.7  |
| 燃料(l/t)                                 | 243    | 351    | 44.3  |
| 用水(m <sup>3</sup> /t)                   | 47     | 45     | ▲4.3  |
| CO <sub>2</sub> (kg-CO <sub>2</sub> /t) | 1,201  | 1,267  | 5.5   |

#### 2. 廃棄物の排出量とリサイクル率

|           | 2001年度 | 2002年度 | 増減(%) |
|-----------|--------|--------|-------|
| 排出量(t)    | 3,681  | 4,316  | 17.3  |
| リサイクル率(%) | 38.7   | 58.7   | 20.0P |

#### 3. 排水の水質関係目標達成状況

|           | 規制値      | 自主基準値   | 実測値  |     |     |
|-----------|----------|---------|------|-----|-----|
|           |          |         | 最大値  | 最小値 | 平均値 |
| pH        | 5.8~8.6  | 6.5~8.0 | 8.0  | 7.5 | —   |
| BOD(mg/L) | 160(120) | 80      | 35.0 | —   | 6.1 |
| SS(mg/L)  | 200(150) | 150     | 11.0 | —   | 5.0 |

#### 4. 大気関係の目標達成状況

|                          | 施設名   | 規制値  | 自主基準値 | 実測値   |       |
|--------------------------|-------|------|-------|-------|-------|
|                          |       |      |       | 最大値   | 平均値   |
| SOx(Nm <sup>3</sup> /h)  | A(5基) | 0.98 | 0.5   | 0.055 | 0.049 |
|                          | B(1基) | 0.86 | 0.5   | 0.113 | 0.094 |
|                          | C(6基) | 3.16 | 2.53  | 0.075 | 0.073 |
| NOx(ppm)                 | A(5基) | 180  | 180   | 130   | 121   |
|                          | B(1基) | 250  | 180   | 98    | 93    |
|                          | C(6基) | 950  | 760   | 660   | 641   |
| ばいじん(g/Nm <sup>3</sup> ) | A(5基) | 0.3  | 0.15  | 0.002 | 0.002 |
|                          | B(1基) | 0.3  | 0.15  | 0.017 | 0.013 |
|                          | C(6基) | 0.1  | 0.08  | 0.028 | 0.02  |

### 伊藤ハムデリー株式会社へ小樽工場

所在地 〒061-3271 北海道小樽市銭函5-61-3  
 主要生産品目 アルトバイエルン、あらびきグルメW、朝のフレッシュローズ

#### 1. エネルギー使用量と二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量(生産原単位)

|                                         | 2001年度 | 2002年度 | 増減(%) |
|-----------------------------------------|--------|--------|-------|
| 電力(kwh/t)                               | 775    | 697    | ▲10.1 |
| 燃料(l/t)                                 | 119    | 106    | ▲10.9 |
| 用水(m <sup>3</sup> /t)                   | 26     | 20     | ▲21.8 |
| CO <sub>2</sub> (kg-CO <sub>2</sub> /t) | 601    | 537    | ▲10.7 |

#### 2. 廃棄物の排出量とリサイクル率

|           | 2001年度 | 2002年度 | 増減(%) |
|-----------|--------|--------|-------|
| 排出量(t)    | 233    | 220    | ▲5.5  |
| リサイクル率(%) | 72.0   | 99.0   | 27.0P |

#### 3. 排水の水質関係目標達成状況

|           | 規制値     | 自主基準値   | 実測値   |     |      |
|-----------|---------|---------|-------|-----|------|
|           |         |         | 最大値   | 最小値 | 平均値  |
| pH        | 5.7~8.7 | 6.5~8.5 | 8.3   | 7.3 | —    |
| BOD(mg/L) | 300     | 200     | 120.0 | —   | 44.0 |
| SS(mg/L)  | 300     | 200     | 100.0 | —   | 30.8 |

#### 4. 大気関係の目標達成状況

|                          | 施設名   | 規制値  | 自主基準値 | 実測値  |      |
|--------------------------|-------|------|-------|------|------|
|                          |       |      |       | 最大値  | 平均値  |
| SOx(Nm <sup>3</sup> /h)  | A(2基) | 0.66 | 0.3   | 0.24 | 0.21 |
| NOx(ppm)                 | A(2基) | —    | 120   | 3.5  | 32   |
| ばいじん(g/Nm <sup>3</sup> ) | A(2基) | 0.4  | 0.1   | 0.01 | 0.01 |

### 伊藤ハム食品株式会社へ小矢部工場

所在地 〒932-0131 富山県小矢部市名畑5068  
 主要生産品目 腸詰W、あらびきグルメW、アルトバイエルン、朝のフレッシュローズ

#### 1. エネルギー使用量と二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量(生産原単位)

|                                         | 2001年度 | 2002年度 | 増減(%) |
|-----------------------------------------|--------|--------|-------|
| 電力(kwh/t)                               | 1,122  | 1,149  | 2.4   |
| 燃料(l/t)                                 | 154    | 163    | 6.3   |
| 用水(m <sup>3</sup> /t)                   | 35     | 41     | 15.6  |
| CO <sub>2</sub> (kg-CO <sub>2</sub> /t) | 817    | 853    | 4.5   |

#### 2. 廃棄物の排出量とリサイクル率

|           | 2001年度 | 2002年度 | 増減(%) |
|-----------|--------|--------|-------|
| 排出量(t)    | 221    | 218    | ▲1.3  |
| リサイクル率(%) | 36.5   | 36.2   | ▲0.3P |

#### 3. 排水の水質関係目標達成状況

|           | 規制値     | 自主基準値   | 実測値 |     |     |
|-----------|---------|---------|-----|-----|-----|
|           |         |         | 最大値 | 最小値 | 平均値 |
| pH        | 6.0~8.0 | 6.0~8.0 | 8.3 | 7.3 | —   |
| BOD(mg/L) | 30(20)  | 20      | 15  | —   | 1.5 |
| SS(mg/L)  | 60(40)  | 20      | 15  | —   | 4.8 |

#### 4. 大気関係の目標達成状況

|                          | 施設名   | 規制値 | 自主基準値 | 実測値  |      |
|--------------------------|-------|-----|-------|------|------|
|                          |       |     |       | 最大値  | 平均値  |
| SOx(Nm <sup>3</sup> /h)  | A(2基) | 2.2 | 1     | 0.06 | 0.04 |
|                          | B(1基) | 1.3 | 1     | 0.05 | 0.02 |
| NOx(ppm)                 | A(2基) | —   | 150   | 117  | 94   |
|                          | B(1基) | —   | 150   | 87   | 64   |
| ばいじん(g/Nm <sup>3</sup> ) | A(2基) | 0.2 | 0.1   | 0.02 | 0.02 |
|                          | B(1基) | 0.2 | 0.1   | 0.02 | 0.02 |

### サンキョーミート株式会社へ有明ミート工場

所在地 〒899-7402 鹿児島県曽於郡有明町野井倉6965  
 主要生産品目 豚肉・牛肉

#### 1. エネルギー使用量と二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量(生産原単位)

|                                         | 2001年度 | 2002年度 | 増減(%) |
|-----------------------------------------|--------|--------|-------|
| 電力(kwh/t)                               | 302    | 257    | ▲15.1 |
| 燃料(l/t)                                 | 23     | 22     | ▲5.9  |
| 用水(m <sup>3</sup> /t)                   | 19     | 15     | ▲20.7 |
| CO <sub>2</sub> (kg-CO <sub>2</sub> /t) | 172    | 118    | ▲31.0 |

#### 2. 排水の水質関係目標達成状況

|           | 規制値     | 自主基準値   | 実測値  |     |     |
|-----------|---------|---------|------|-----|-----|
|           |         |         | 最大値  | 最小値 | 平均値 |
| pH        | 5.8~8.6 | 6.0~8.0 | 7.6  | 7.3 | —   |
| BOD(mg/L) | 30      | 20      | 16.0 | —   | 3.9 |
| SS(mg/L)  | 40      | 20      | 15.0 | —   | —   |

#### 3. 大気関係の目標達成状況

|                          | 施設名   | 規制値 | 自主基準値 | 実測値   |      |
|--------------------------|-------|-----|-------|-------|------|
|                          |       |     |       | 最大値   | 平均値  |
| SOx(Nm <sup>3</sup> /h)  | A(5基) | 1.8 | 1     | 0.17  | 0.24 |
|                          | B     | —   | —     | —     | —    |
| NOx(ppm)                 | A(5基) | —   | —     | —     | —    |
|                          | B     | —   | —     | —     | —    |
| ばいじん(g/Nm <sup>3</sup> ) | A(5基) | 0.3 | 0.2   | 0.025 | 0.01 |
|                          | B     | —   | —     | —     | —    |

### へ霧島ミート工場

所在地 〒886-0004 宮崎県小林市大字細野字吉原2516  
 主要生産品目 豚肉

#### 1. エネルギー使用量と二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量(生産原単位)

|                                         | 2001年度 | 2002年度 | 増減(%) |
|-----------------------------------------|--------|--------|-------|
| 電力(kwh/t)                               | 214    | 208    | ▲2.7  |
| 燃料(l/t)                                 | 12     | 11     | ▲5.0  |
| 用水(m <sup>3</sup> /t)                   | 4      | 3      | ▲27.0 |
| CO <sub>2</sub> (kg-CO <sub>2</sub> /t) | 108    | 104    | ▲3.7  |

#### 2. 排水の水質関係目標達成状況

|           | 規制値      | 自主基準値   | 実測値  |     |      |
|-----------|----------|---------|------|-----|------|
|           |          |         | 最大値  | 最小値 | 平均値  |
| pH        | 5.8~8.6  | 5.8~8.6 | 7.4  | 6.9 | —    |
| BOD(mg/L) | 160      | 100     | 94.0 | —   | 19.3 |
| SS(mg/L)  | 200(150) | 50      | 11.0 | —   | 5.1  |



## 環境保全活動の沿革

| 年 月                                                    | 当社の主な取り組み内容                                                                                                                                                                                                                                                                    | 日本の主な動き                                                                                                                            |
|--------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1965 年                                                 | • 廃水処理設備の導入開始                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                    |
| 1971 年                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                | • 環境庁設置                                                                                                                            |
| 1973 年                                                 | • 都市ガス燃料ボイラーの導入開始                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                    |
| 1990 年                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                | • 地球温暖化防止行動計画策定                                                                                                                    |
| 1991 年 3 月                                             | • 生産各工場に「環境管理室」を設置                                                                                                                                                                                                                                                             | • 経団連「地球環境憲章」制定<br>• リサイクル法公布                                                                                                      |
| 1992 年                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                | • 廃棄物処理及び清掃に関する法律改正                                                                                                                |
| 1993 年 3 月                                             | • 生産事業本部に「環境安全担当」を設置                                                                                                                                                                                                                                                           | • 環境基本法制定                                                                                                                          |
| 1994 年 10 月                                            | • 大型ボイラーから小型ボイラーに更新し環境負荷を低減                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                    |
| 1995 年                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                | • 容器包装リサイクル法公布                                                                                                                     |
| 1996 年                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                | • ISO14001国際環境管理規格発効                                                                                                               |
| 1997 年                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                | • 地球温暖化防止京都会議(COP3)開催                                                                                                              |
| 1998 年 2 月<br>3 月                                      | • 営業車輛に天然ガス(CNG)車の導入開始(業界初)<br>• 「環境担当役員」を選任、「環境安全推進室」を設置<br>• 全社的な活動推進組織を設置<br>「環境委員会」―「生産部会」「商品物流部会」「オフィス部会」及び、<br>生産部会の下部組織として「工場環境委員会」を設置                                                                                                                                  | • 「地球温暖化対策推進大綱」制定<br>• 家電リサイクル法公布<br>• エネルギーの使用合理化に関する法律(省エネ法)改正                                                                   |
| 1999 年 2 月<br>10 月                                     | • 「環境基本方針」を制定<br>• 東京工場が廃棄物計量システムを導入                                                                                                                                                                                                                                           | • PRTR法公布<br>• ダイオキシン類対策特別措置法公布                                                                                                    |
| 2000 年 2 月<br>3 月<br>4 月<br>8 月<br>9 月<br>10 月<br>11 月 | • 西宮工場がISO14001を認証取得<br>• オーストラリアのロックデールビーフ社がISO14001を認証取得<br>• 環境監査実施基準を策定し、内部環境監査を開始<br>• 西宮工場が廃棄物計量システムを導入<br>• 環境報告書をはじめて発行<br>• ホームページの「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」を開設<br>• 東京工場がISO14001を認証取得<br>• 豊橋工場が廃棄物計量システムを導入<br>• 豊橋工場がISO14001を認証取得                                        | • 循環型社会形成推進基本法公布<br>• 容器包装リサイクル法完全施行<br>• 建設リサイクル法公布<br>• 食品リサイクル法公布<br>• グリーン購入法公布<br>• 改正リサイクル法公布<br>• 環境省「環境会計ガイドライン(2000年版)」公表 |
| 2001 年 1 月<br>3 月<br>4 月<br>7 月<br>10 月                | • ニュージーランドのファイブスタービーフ社がISO14001を認証取得<br>• 中期経営計画において環境活動三ヵ年計画を策定<br>• グリーン購入基本方針制定<br>• 環境監査実施基準を策定し、内部環境監査を開始<br>• 九州工場が廃棄物計量システムを導入<br>• 生産工場を対象に環境会計を導入<br>• 西宮工場でコージェネシステムが稼動<br>• 六甲工場がISO14001を認証取得                                                                      | • PCB廃棄物特別措置法公布<br>• フロン回収破壊法公布<br>• 環境省「環境報告書ガイドライン(2000年度版)」公表                                                                   |
| 2002 年 2 月<br>3 月<br>8 月<br>9 月<br>10 月<br>11 月        | • 九州工場がISO14001を認証取得<br>• サンキョーミート(株)有明ミート工場・藤栄ファーム事業部・霧島ミート工場がISO14001を認証取得<br>• 環境基本方針の「環境行動指針」を一部改定<br>• 環境推進組織「生産部会」の下に「省エネ対策専門会議」を設置<br>• 九州工場、伊藤ハムデリー東北工場でコージェネシステムが稼動<br>• コンプライアンスハンドブックを従業員に配布<br>• 豊橋工場でコージェネシステムが稼動<br>• 日本食糧新聞社の「環境資源協力賞」を受賞<br>• 社会貢献活動理念と活動方針を策定 | • 「地球温暖化対策推進大綱」(見直し)<br>• 自動車リサイクル法公布<br>• 土壌汚染対策法公布<br>• 環境省「環境会計ガイドライン(2002年版)」公表                                                |
| 2003 年 3 月                                             | • 北神工場がISO14001を認証取得                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                    |

# 「2002年環境報告書」アンケート結果について

2002年6月に発行した「2002年環境報告書」アンケートに多数お答えいただきありがとうございました。

環境報告書の内容につきましては、①適当なページ数にまとめられていて分かりやすい、②見やすくデザインされている、③内容が充実している、④表・グラフ、データが豊富で分かりやすい、との評価をいただきました。また、環境保全活動や環境報告書についての貴重なご意見・ご感想も多数いただきました。

みなさまからいただいたご意見・ご感想やアンケートの結果を参考にして、2003年以降の環境保全活動の取り組みや環境報告書の制作を進めてまいります。

2003年6月

伊藤ハム株式会社 環境安全推進室 〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4-27

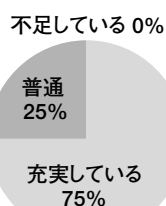
TEL：0798-66-1289

FAX：0798-64-1148

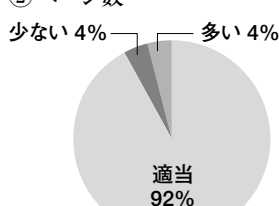
## 「2002年環境報告書」アンケート集計結果(回収数28通)

### 1. 「2002年環境報告書」の評価

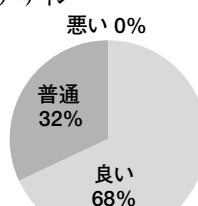
#### ① 内容



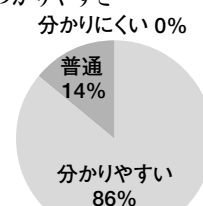
#### ② ページ数



#### ③ デザイン



#### ④ わかりやすさ



### 2. 「2002年環境報告書」の中で興味を持った内容 (比率:回答総数92に対する比率)…複数回答

|                   | 回答数 | 比率 |
|-------------------|-----|----|
| ①経営理念             | 6   | 7% |
| ②環境基本方針           | 5   | 5% |
| ③事業活動と環境負荷        | 3   | 3% |
| ④2001年度の環境活動ハイライト | 3   | 3% |
| ⑤環境活動の推進組織        | 3   | 3% |
| ⑥環境監査体制           | 1   | 1% |
| ⑦ISO14001の認証取得の推進 | 3   | 3% |
| ⑧緊急時の対応策          | 3   | 3% |
| ⑨法規制遵守の状況         | 1   | 1% |
| ⑩グリーン購入           | 2   | 2% |
| ⑪中期環境目標           | 3   | 3% |
| ⑫環境会計             | 4   | 4% |

|                   | 回答数 | 比率  |
|-------------------|-----|-----|
| ⑬省エネルギーの取り組み      | 11  | 12% |
| ⑭温室効果ガスと化学物質の排出抑制 | 5   | 5%  |
| ⑮廃棄物の削減と有効利用      | 10  | 11% |
| ⑯その他の環境負荷低減活動     | 7   | 8%  |
| ⑰情報開示             | 4   | 4%  |
| ⑱従業員教育            | 4   | 4%  |
| ⑲社会活動             | 5   | 5%  |
| ⑳伊藤ハムの取り組み実績      | 4   | 4%  |
| ㉑関連会社の取り組み実績      | 2   | 2%  |
| ㉒環境保全活動の沿革        |     | 0%  |
| ㉓環境活動に関するQ&A      | 3   | 3%  |

### 3. 当社の環境保全活動について



### 4. 「2002年環境報告書」や環境保全活動についてのご意見の一部をご紹介します。

- 継続的改善の結果として環境パフォーマンスの成果を上げられていることを高く評価します。
- 経営理念や環境基本方針に基づき目標を設定し活動していることを非常に評価します。
- 社会貢献できる企業であると判断しました。
- 環境に対して従業員全員で取り組める企業であってください。
- 原料の仕入れ先、製品設計、製品の納入先及び営業部門などに活動範囲を拡大されることを期待します。
- 「従業員の声」の記載を増やすことで従業員の環境保全に対する意識が伝わってくると思います。
- 今後も正確な情報の開示を継続して欲しい。
- 消費者との信頼関係の継続に期待します。

# 「2003年環境報告書」アンケート

● ご意見・ご感想をお聞かせください。 ●

伊藤ハム株式会社 環境安全推進室 行き

〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4-27

**FAX 0798-64-1148**

Q1. 本報告書をお読みになったの評価をお聞かせください。

- |        |                                 |                             |                                 |
|--------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| ● 内容   | <input type="checkbox"/> 分かりやすい | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 分かりにくい |
| ● ページ数 | <input type="checkbox"/> 多い     | <input type="checkbox"/> 適当 | <input type="checkbox"/> 少ない    |
| ● デザイン | <input type="checkbox"/> 良い     | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い     |
| ● 活動項目 | <input type="checkbox"/> 充実している | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 不足している |

Q2. 本報告書の中で、興味をもった内容についてお聞かせください。(複数回答可)

- ①経営姿勢 ②企業倫理規範 ③環境基本方針 ④2002年度の活動ハイライト ⑤事業活動と環境負荷の概況  
⑥関係法規及び法の遵守 ⑦環境マネジメントの推進組織 ⑧環境監査の実施 ⑨ISO14001認証取得  
⑩グリーン購入 ⑪中期環境目標 ⑫環境会計 ⑬省エネルギーの取り組み ⑭温室効果ガスと化学物質の排出抑制  
⑮廃棄物の削減と有効利用 ⑯その他の環境負荷低減活動 ⑰情報開示 ⑱従業員教育 ⑲社外からの評価  
⑳ボランティア支援制度 ㉑環境社会活動 ㉒社会とのかかわり ㉓伊藤ハムの取り組み実績 ㉔関連会社の取り組み実績  
㉕環境保全活動の沿革 ㉖環境Q&A ㉗その他(具体的に…)

Q3. 当社の環境保全活動について、どのようにお感じになりましたか。

- ①非常に評価できる ②評価できる ③普通 ④あまり評価できない  
⑤全く評価できない

その理由 .....

Q4. 当社の環境活動および環境情報開示について期待されることは何ですか。

.....

Q5. 本環境報告書をどのようなお立場でお読みになられていますか。

- ☐ お客様 ☐ お取引先 ☐ 製品の購買ご担当者 ☐ 株主 ☐ 金融・投資機関 ☐ 研究・教育機関 ☐ 報道関係  
☐ 行政関係 ☐ 環境NGO・NPO ☐ 伊藤ハムグループ事業所の近隣にお住まいの方 ☐ 学生 ☐ 環境の専門家  
☐ 企業の環境ご担当者 ☐ その他( )

Q6. 本報告書の内容や環境保全活動全体に関するご意見・ご感想をお聞かせください。

.....

ご協力ありがとうございました。さしつかえなければ、下記にもご記入ください。

|       |             |   |  |    |     |    |  |         |  |
|-------|-------------|---|--|----|-----|----|--|---------|--|
| お 名 前 |             |   |  | 性別 | 男・女 | 年齢 |  | ご職業・勤務先 |  |
| ご連絡先  | ご 住 所       | 〒 |  |    |     |    |  |         |  |
|       | T E L       |   |  |    |     |    |  |         |  |
|       | F A X       |   |  |    |     |    |  |         |  |
|       | e - m a i l |   |  |    |     |    |  |         |  |

●次年度の環境報告書の送付を希望されますか? ☐ はい ☐ いいえ





発行 2003年6月

環境活動、環境報告書、ホームページ等についてのお問い合わせ先

伊藤ハム株式会社 環境安全推進室  
〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号

T E L : (0798) 66-1289

F A X : (0798) 64-1148

U R L : <http://www.itoham.co.jp>

E-mail : [eco@itoham.co.jp](mailto:eco@itoham.co.jp)



有害な廃液の出ない水なし平板  
印刷方式で、印刷しています。



古紙配合率100%再生紙を  
使用しています。



アロマフリー型大豆油インキを使用  
しています。